第６章　公共施設に関する
アンケート調査及び分析結果

第6章　公共施設に関するアンケート調査及び分析結果

１　調査目的

公共施設再配置計画の推進に当たっては、公共施設を利用する市民のみならず、広く市民の声を聴き、公共施設のあり方に対する意向を把握する必要があります。そのためには、無作為抽出による市民アンケート調査が有力な手段となることから、平成 21 年度及び平成 24 年度に続き、インターネットによるアンケート調査を実施したものです。

２　調査期間（インターネット上での回答受付時間）

開始　平成２６年１２月１０日（水）午後　１０時４５分
終了　平成２６年１２月２２日（月）午前　１０時

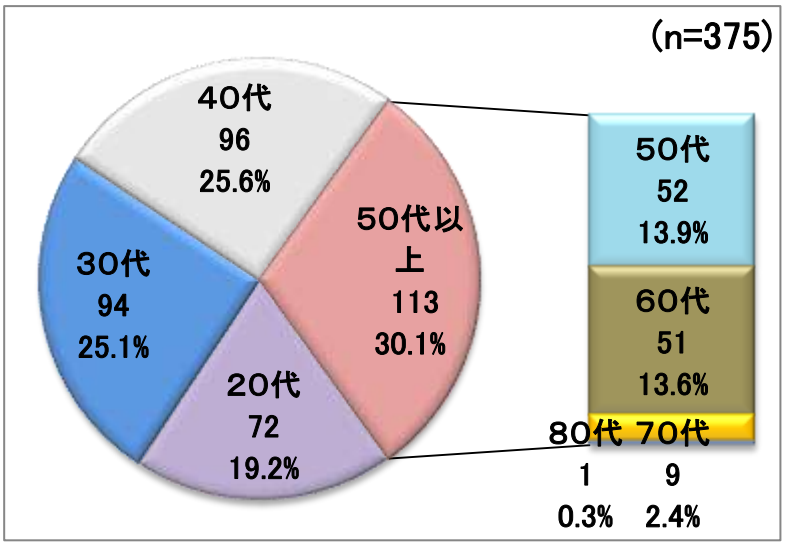
３　調査対象

調査会社が行うインターネットによるアンケート調査への協力に登録している会員の中から、秦野市在住者を抽出して調査したものです。

４　回答者の属性及び分析結果

属性１　年齢及び性別

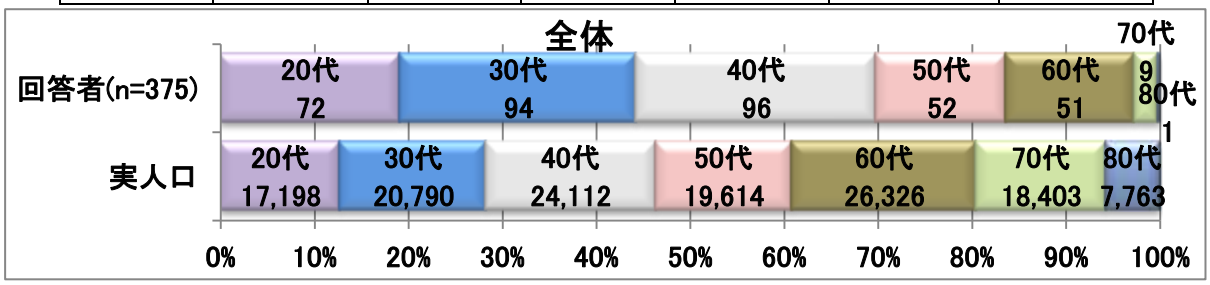
◆　20代のサンプル数をやや少なめに設定し、登録数の少ない50代以上のサンプル数をできるだけ増やすこととしました。また、サンプル数を確保できない部分では、まずは同年代男女間で補い、次に、直近の年代で補うようにしました。

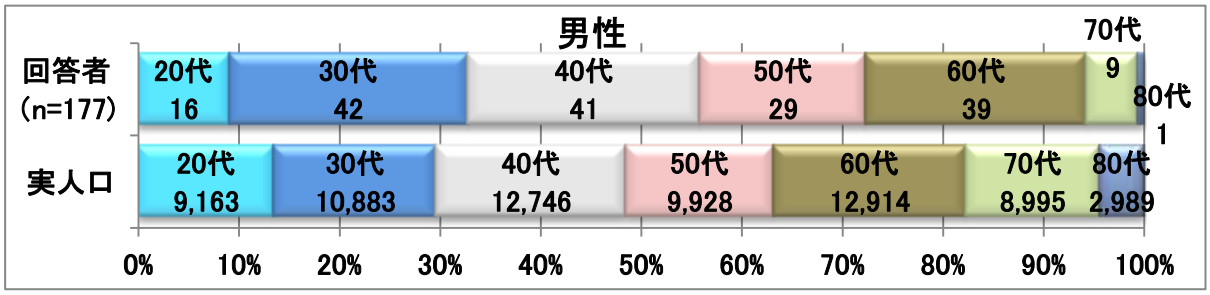


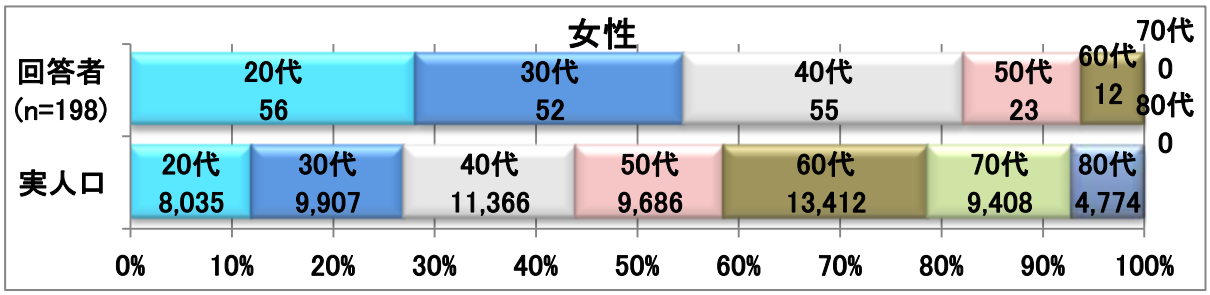
◆　実人口との比較

実人口（平成26年11月30日現在の20歳から89歳までの住民基本台帳人口。以下同じ。）に比べ、回答者の年齢別割合は、20代から40代までの間で上回り、50代以上では下回っています。また、20代男性のサンプル数が少ない分を20代女性のサンプルで、50代以上女性のサンプル数が少ない分を50代以上男性のサンプルで補っているため、それぞれ割合が比較的増えています。

性別 / 年齢	男		女		計	
	人数 （実人口）	割合 （実人口）	人数 （実人口）	割合 （実人口）	人数 （実人口）	割合 （実人口）
20 代	16 (9, 163)	4. 3% (6. 8%)	56 (8, 035)	14. 9% (6. 0%)	72 (17, 198)	19. 2% (12. 8%)
30 代	42 (10, 883)	11. 2% (8. 1%)	52 (9, 907)	13. 9% (7. 4%)	94 (20, 790)	25. 1% (15. 5%)
40 代	41 (12, 746)	10. 9% (9. 5%)	55 (11, 366)	14. 7% (8. 5%)	96 (24, 112)	25. 6% (18. 0%)
50 代	29 (9, 928)	7. 7% (7. 4%)	23 (9, 686)	6. 1% (7. 2%)	52 (19, 614)	13. 9% (14. 6%)
60 代	39 (12, 914)	10. 4% (9. 6%)	12 (13, 412)	3. 2% (10. 0%)	51 (26, 326)	13. 6% (19. 6%)
70 代	9 (8, 995)	2. 4% (6. 7%)	0 (9, 408)	0. 0% (7. 0%)	9 (18, 403)	2. 4% (13. 7%)
80 代	1 (2, 989)	0. 3% (2. 1%)	0 (4, 774)	0. 0% (3. 6%)	1 (7, 763)	0. 3% (5. 8%)
計	177 (67, 618)	47. 2% (50. 4%)	198 (66, 588)	52. 8% (49. 6%)	375 (134, 206)	100. 0% (100. 0%)





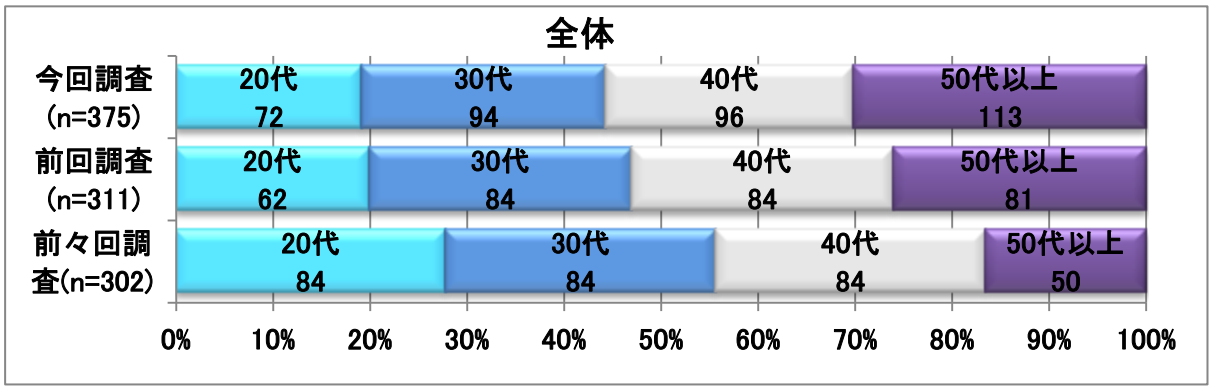


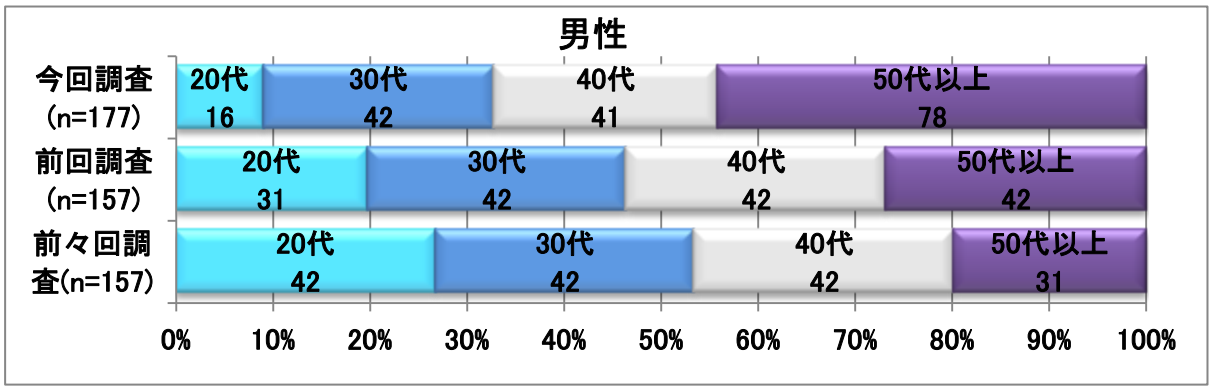
◆　前回までの調査との比較

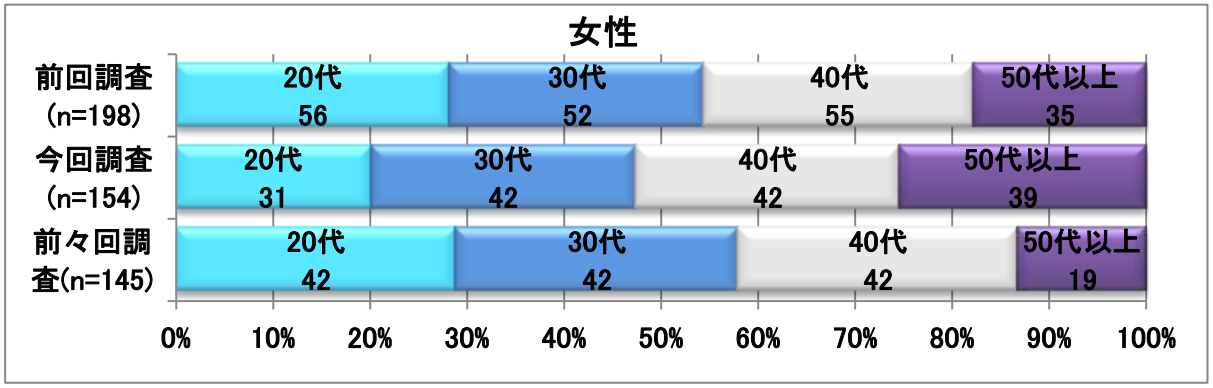
前回調査（平成24年（2012）年12月実施）では、不特定の市民が利用する公共施設の利用者は、50代以上が多くを占めていることを踏まえて、前々回調査（平成21（2009）年6月実施）に比べて、50代以上の市民からの回答数を増やしています。

今回の調査でも、同様の趣旨を踏まえるとともに、実人口の年齢構成も考慮して、さらに50代以上の人からの意見を増やすよう努めることとしました。

その結果、インターネットに親しむ中高年齢層が増加しているものと見られ、前回調査よりもさらにその回答割合を増やすことができました。

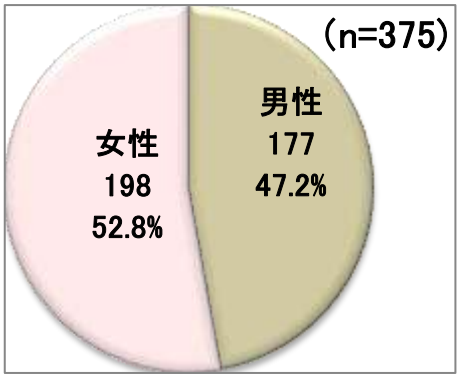






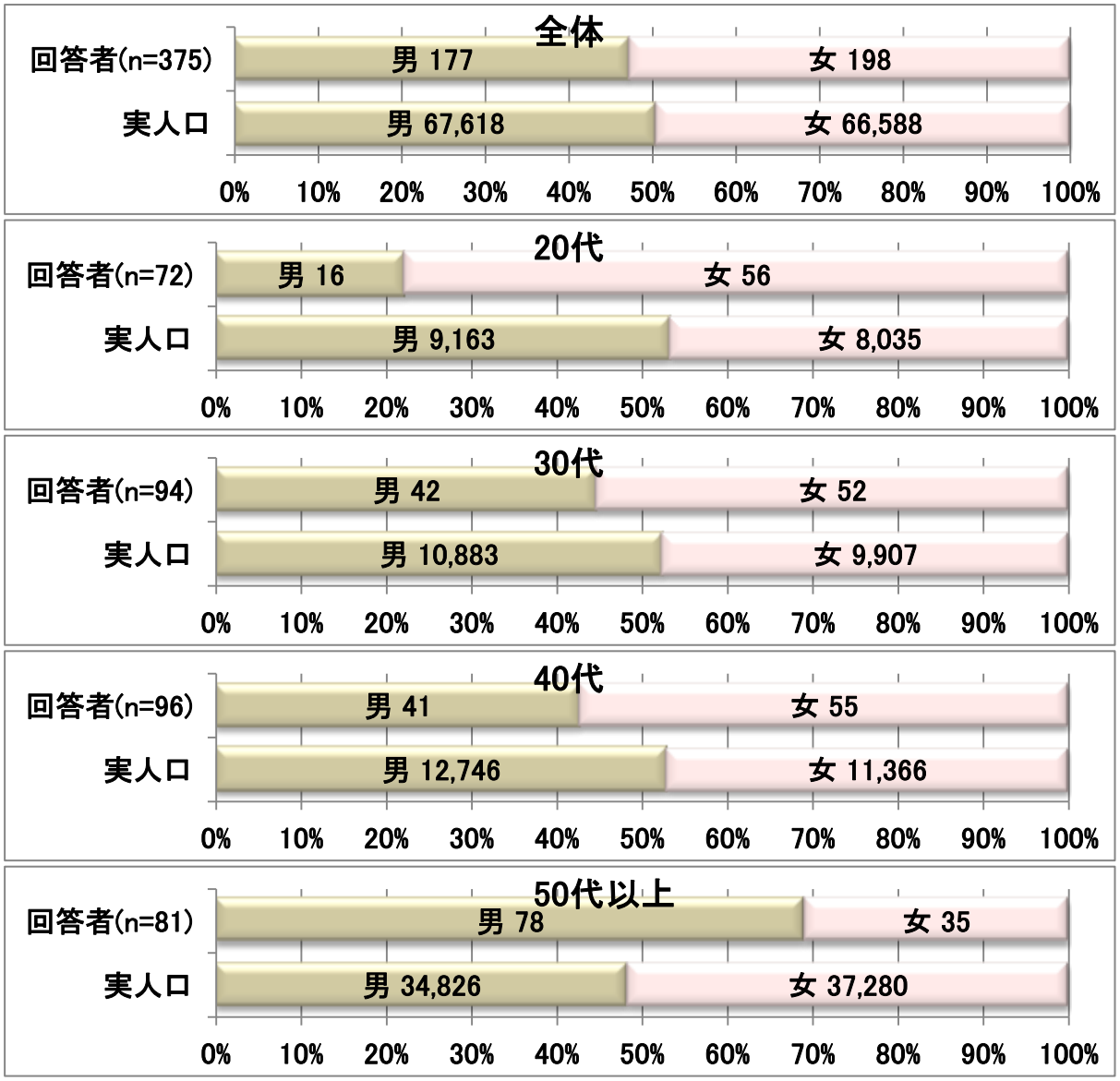
属性２　性別

◆　男女同数の回収を目指しましたが、男性のサンプル数が50代以上では比較的多いものの、40代以下では、特に20代を中心に少なく、全体では、女性の回答数の方がやや多い結果となりました。



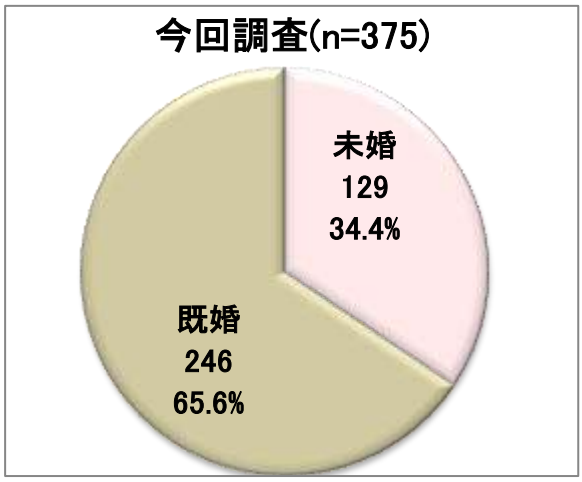
◆　実人口との比較

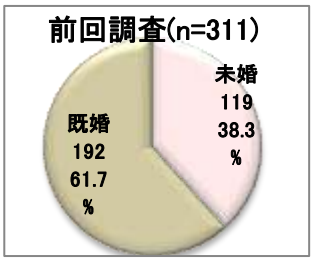
実人口と回答者の年代別割合を比較すると、次に示すとおり、回答者は、20代から40代までは女性の割合が高く、50代以上では男性の割合が高くなっています。

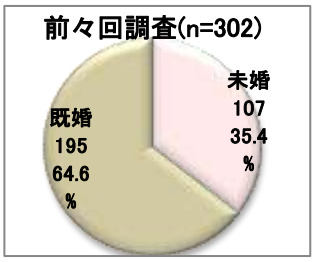


属性３　未既婚

◆　既婚者のほうが多い結果となりました。この傾向は、前回までの調査と同様の結果となっています。

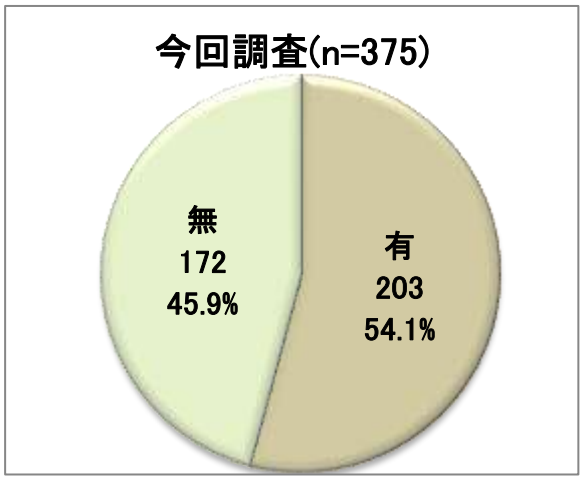


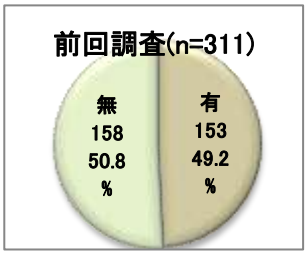


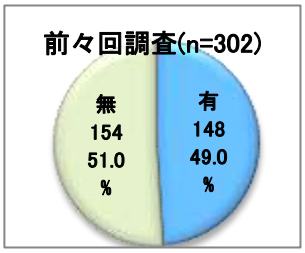


属性４　子供の有無

◆　子供の有無について、今回の調査では、子供ありとする回答の方が多い結果となりました。







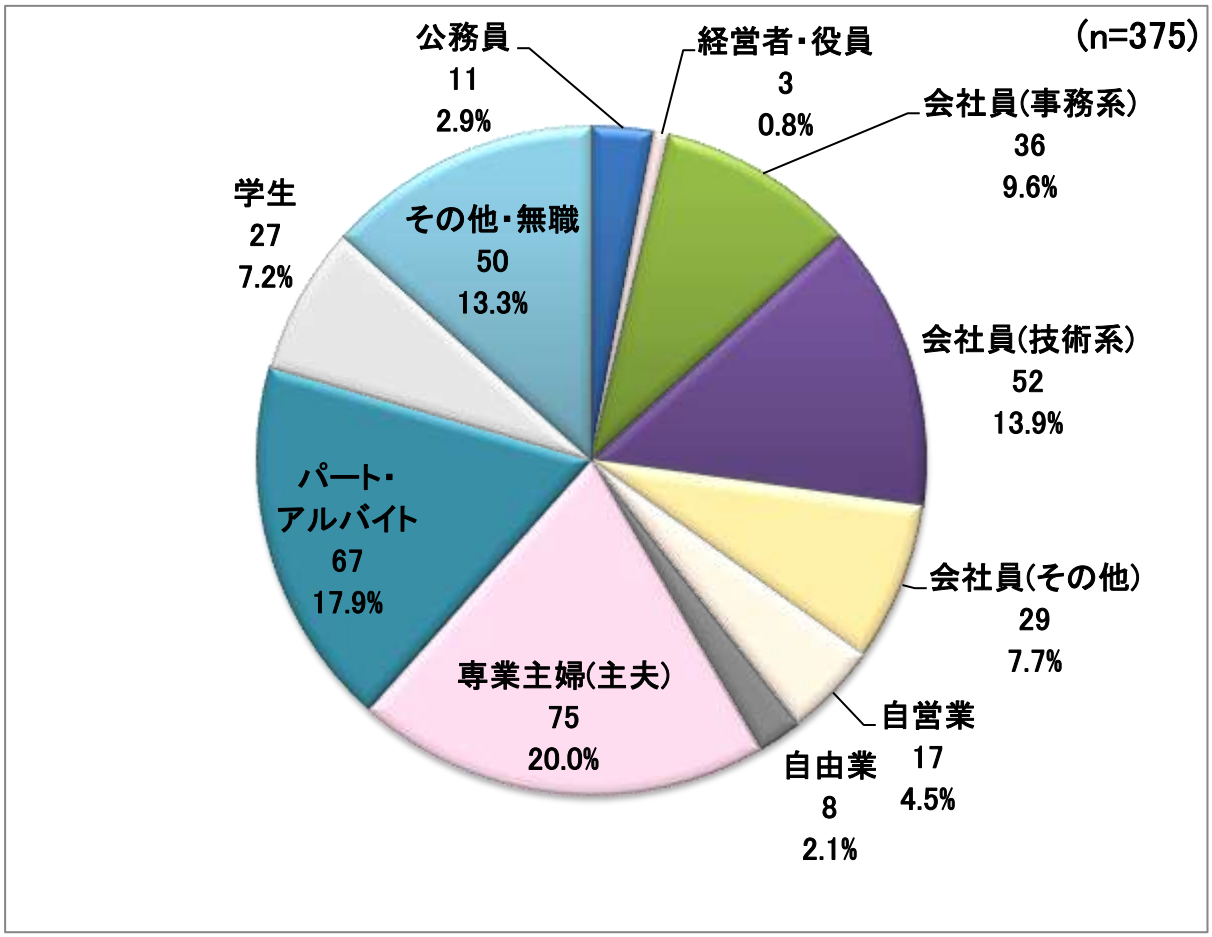
属性５　職業

◆　回答者の職業は、専業主婦（主夫）の割合が最も高く、次いでパート・アルバイト、会社員（技術系）となっています。逆に最も低いのは、経営者・役員となり、次いで自由業、公務員となっています。

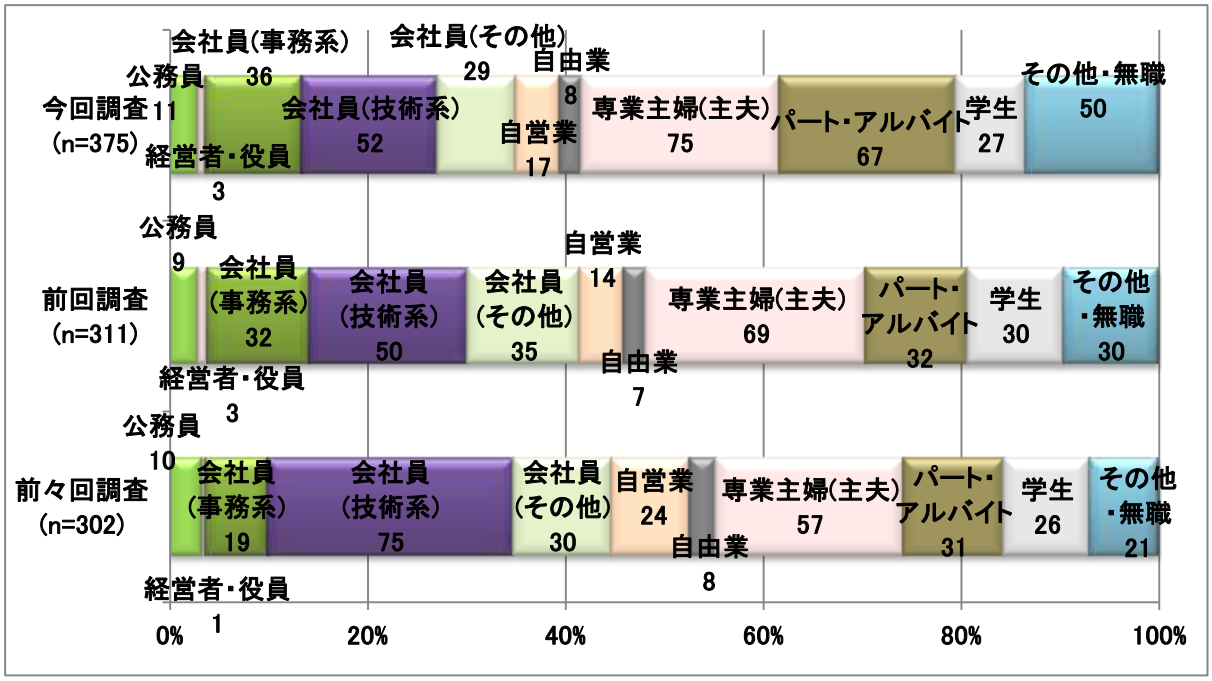
前回調査と比較すると、次に示すとおり、割合が増えたのは、パート・アルバイトが7.6ポイント、その他・無職が3.7ポイントとなっています。

逆に減ったのは、会社員（その他）が3.6ポイント、学生が2.4ポイント、会社員（技術系）と専業主婦（主夫）がそれぞれ2.2ポイント、会社員（事務系）が0.7ポイント、自由業と経営者・役員がそれぞれ0.2ポイントとなっています。

また、公務員の区分から自営業までを合計すると、前々回調査では52.6%、前回調査では46.0%でしたが、今回調査では39.5%となり、前々回よりも13.1ポイント、前回よりも6.5ポイント減少しています。

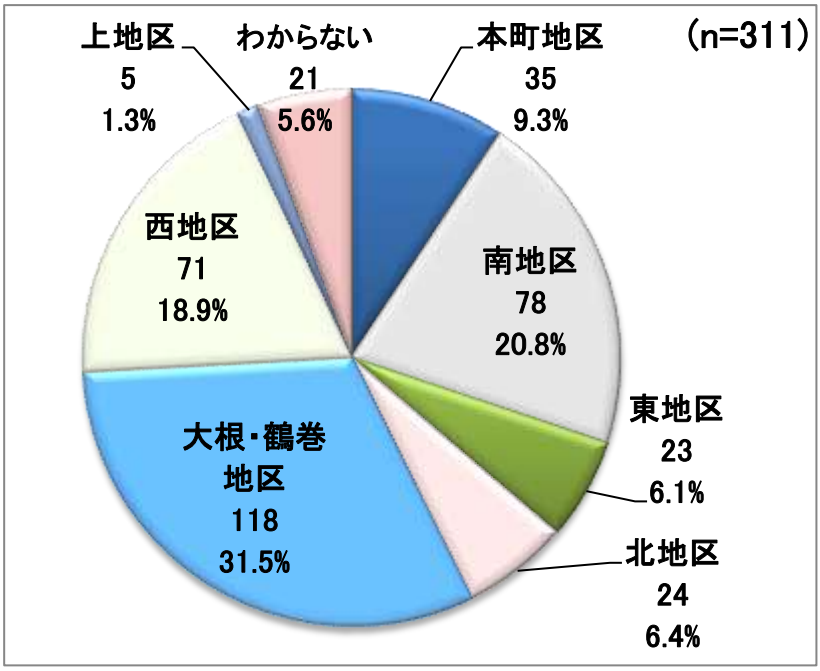


調査区分 / 職業区分	今回調査		前回調査		前々回調査	
	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)	回答者数	割合(%)
公務員	11	2.9	9	2.9	10	3.3
経営者・役員	3	0.8	3	1.0	1	0.3
会社員(事務系)	36	9.6	32	10.3	19	6.3
会社員(技術系)	52	13.9	50	16.1	75	24.8
会社員(その他)	29	7.7	35	11.3	30	9.9
自営業	17	4.5	14	4.5	24	7.9
自由業	8	2.1	7	2.3	8	2.6
専業主婦(主夫)	75	20.0	69	22.2	57	18.9
パート・アルバイト	67	17.9	32	10.3	31	10.3
学生	27	7.2	30	9.6	26	8.6
その他・無職	50	13.3	30	9.6	21	7.0
全体	375	100.0	311	100.0	302	100.0



5　設問及び回答内容並びに分析結果

質問１　あなたが居住している地区を教えてください。

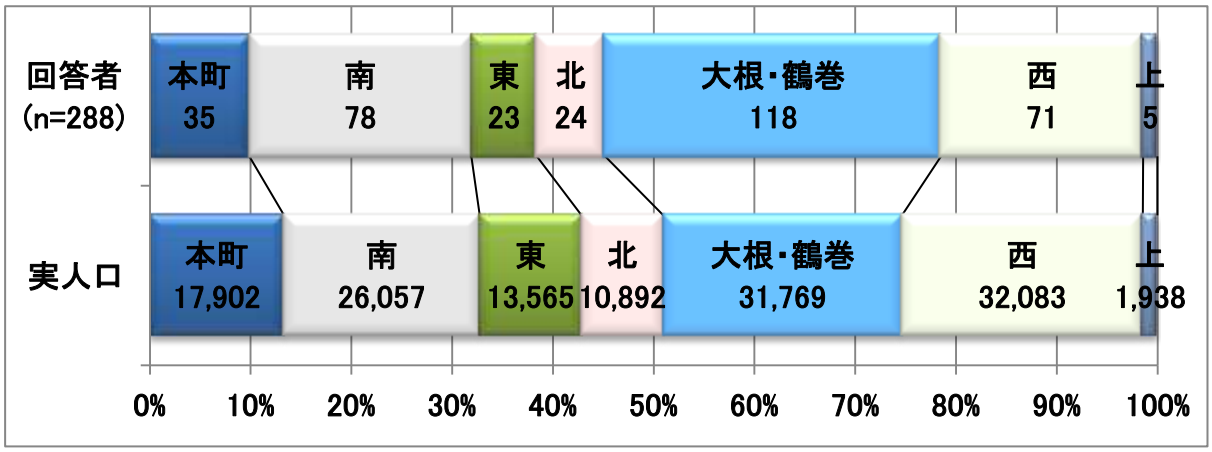


◆　大根・鶴巻地区と回答した人が最も多く、次いで西地区、南地区となりました。また、逆に少ないのは、上地区、東地区、北地区となりました。

上記の結果のうち、「わからない」と回答した人を除き、実人口割合と比較すると以下のとおりとなりました。

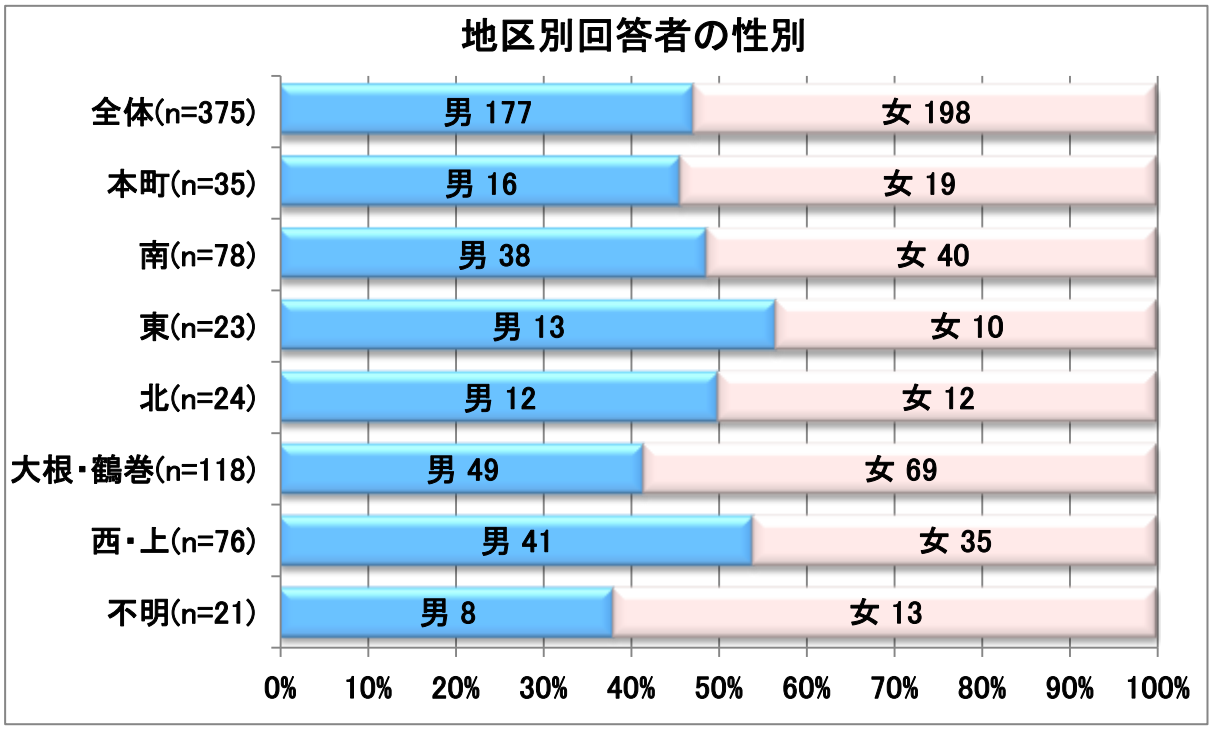
実人口割合よりも回答者の割合が高いのは、南地区、大根・鶴巻地区となっています。特に大根・鶴巻地区では、7.8ポイント高くなっています。また、逆に低いのは、本町地区、東地区、北地区、西地区、上地区となり、西地区では、5.0ポイント低くなっています。

区分＼地区	本町	南	東	北	大根鶴巻	西	上	合計
回答者割合(%)	9.3	20.8	6.1	6.4	31.5	18.9	1.3	100.0
実人口割合(%)	13.3	19.4	10.1	8.1	23.7	23.9	1.5	100.0



◆　地区別の回答者の性別

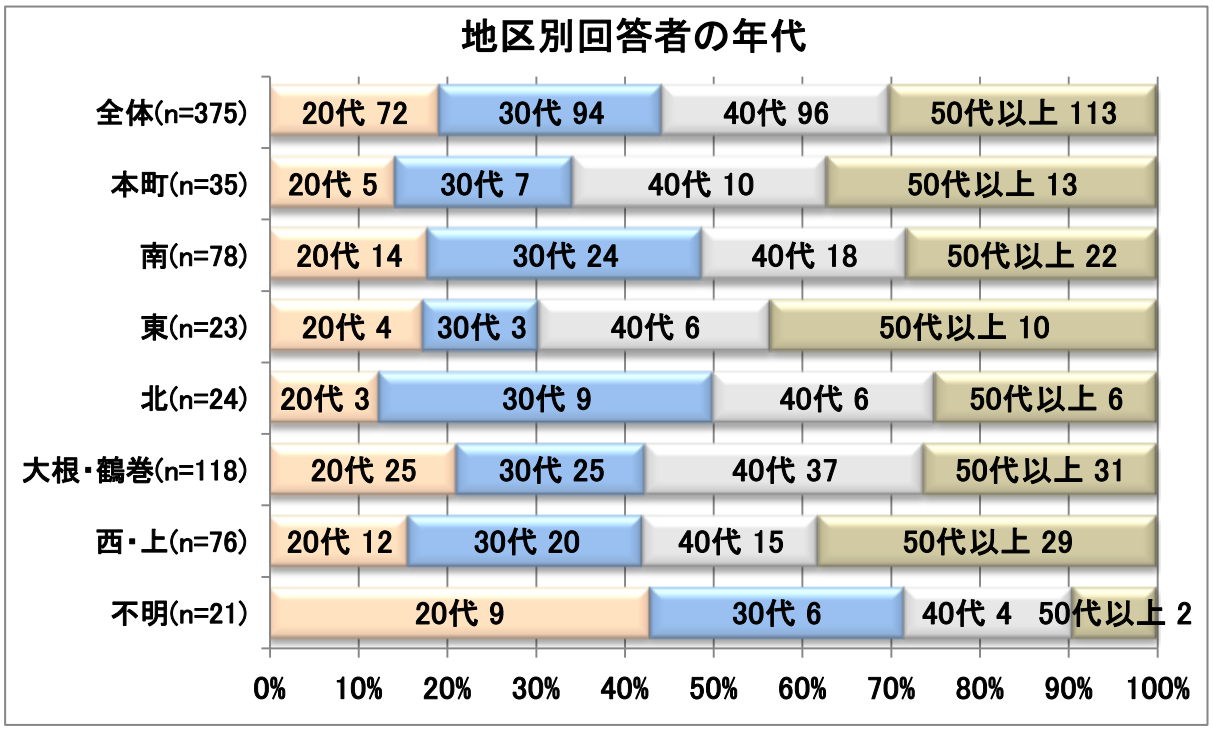
男性の回答者割合が高かったのは、東地区(56.5%)、西・上地区(53.9%)、女性の方が高かったのは、大根・鶴巻地区(58.5%)、本町地区(54.3%)となっています。



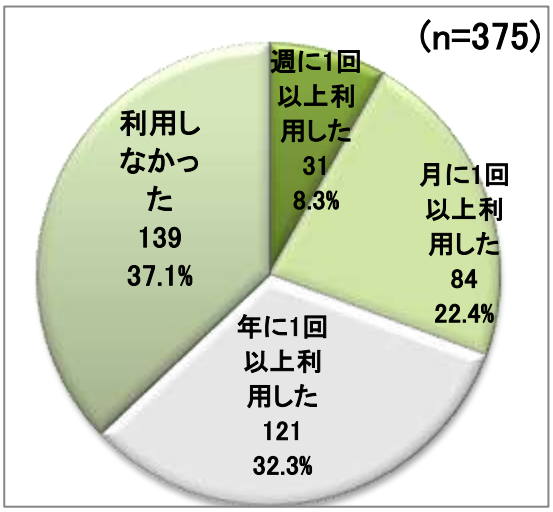
◆　地区別の回答者の年代

20代の回答者割合が高かったのは大根・鶴巻地区(21.2%)、東地区(17.4%)、30代の回答者割合が高かったのは北地区(37.5%)、南地区(30.8%)、西・上地区

(26.3%)、40 代の回答者割合が高かったのは大根・鶴巻地区(31.4%)、本町地区(28.6%)、50 代以上の回答者割合が高かったのは東地区(43.5%)、西・上地区(38.2%)、本町地区(37.1%)などとなっています。



質問２　あなたは、過去１年間に総合体育館、文化会館、図書館、公民館、児童館のように、不特定の市民が利用することができる秦野市立の公共施設を利用しましたか。（公園のように職員が常駐していない施設は除きます。）

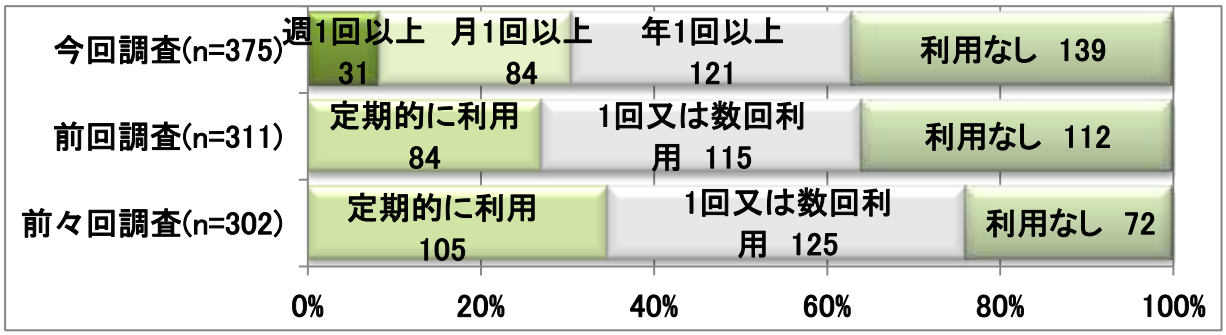


◆　最も多かったのは、「利用しなかった」と回答した人となり、逆に最も少なかったのは、「週に 1 回以上利用した」と回答した人となりました。

◆　前回までの調査との比較

「週に１回以上利用した人」と「月に 1 回以上利用した人」とを前回までの調査における「定期的に利用」の区分として、また、年に 1 回以上利用した人を、同じく「1 回又は数回利用」の区分として比較すると、それぞれの割合は、前回調査の割合と概ね一致しています。

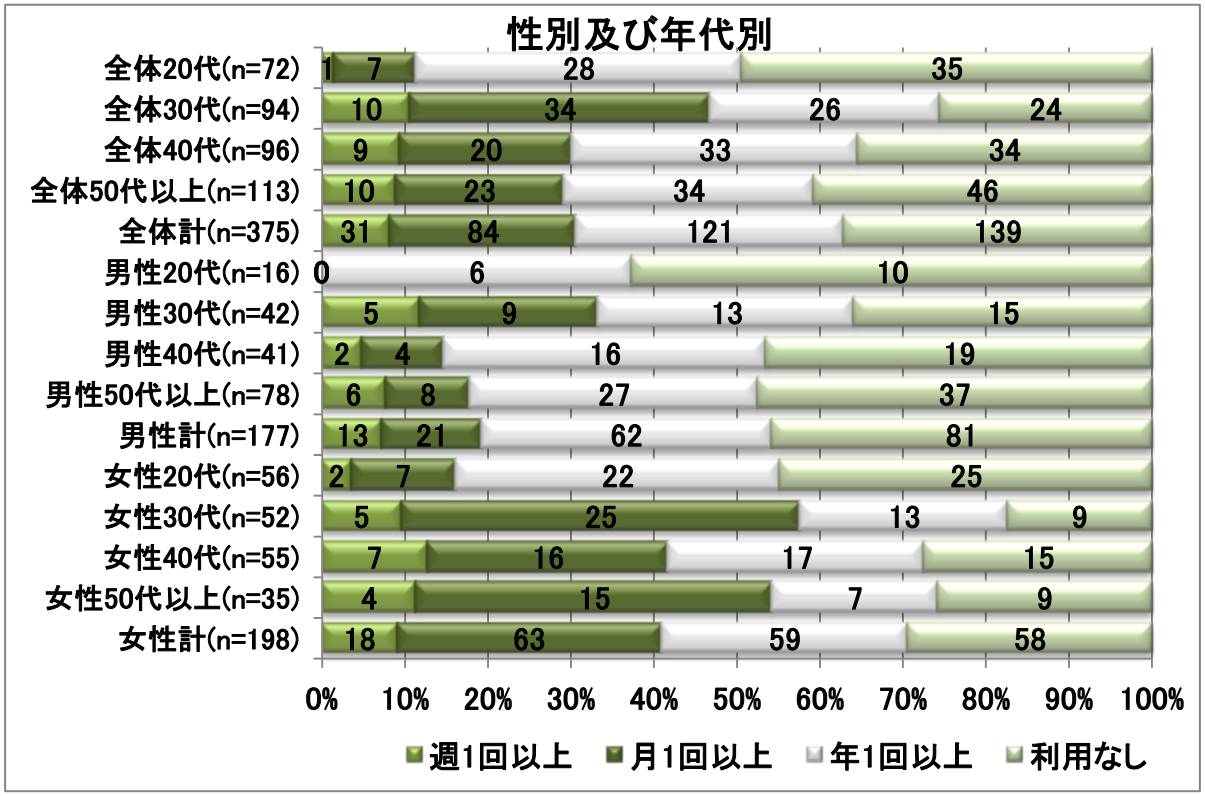
3 回の調査結果を見ると、市民の概ね 3 分の 2 の人が過去 1 年間に公共施設を利用し、そのうちの約半数、市民の概ね 3 分の 1 が定期的利用者であるということが言えます。



◆　性別及び年代別の比較

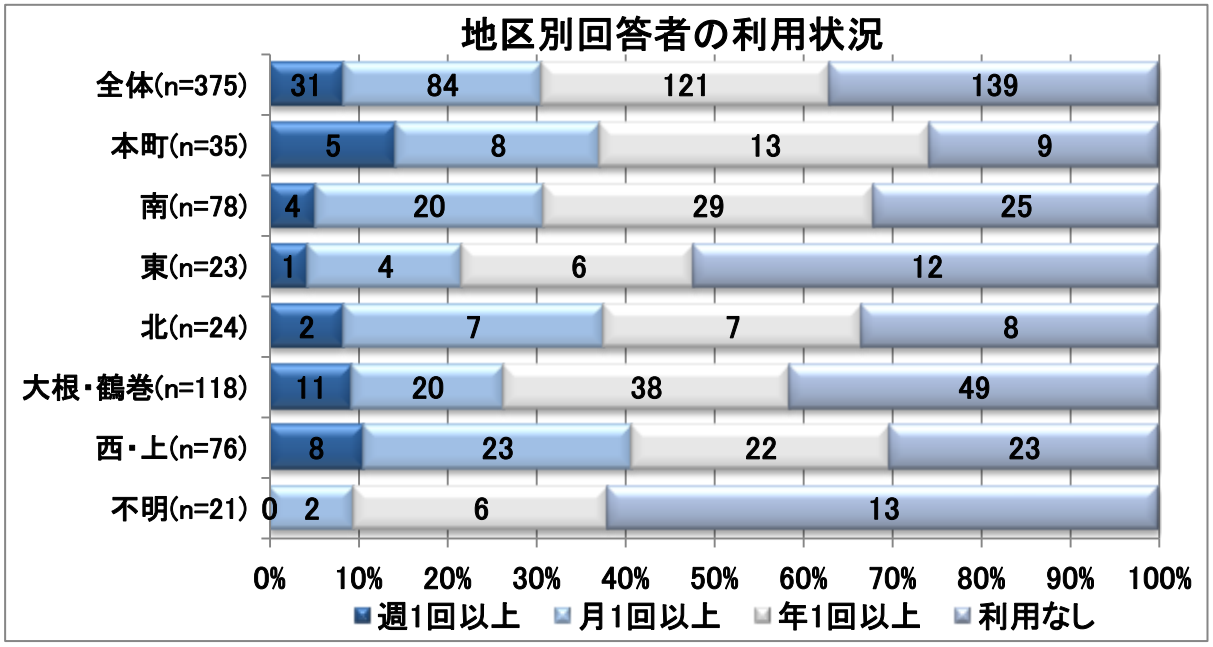
「週 1 回以上」と「月 1 回以上」と回答した定期的な利用者（以下「定期的利用者」といいます。）の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では 30 代となり、30 代女性の 57.7%が最高となり、次いで、50 代以上女性の 54.3%となっています。

また、「利用しなかった」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では男性、年代では 20 代となり、20 代男性の 62.5%が最高となりました。



◆　地区別の比較

定期的利用者の割合が最も高いのは西・上地区(40.8%)、次いで北地区(37.5%)となりました。逆に「利用しなかった」と回答した者の割合が最も高いのは、東地区(52.2%)、次いで大根・鶴巻地区(41.5%)となりました。

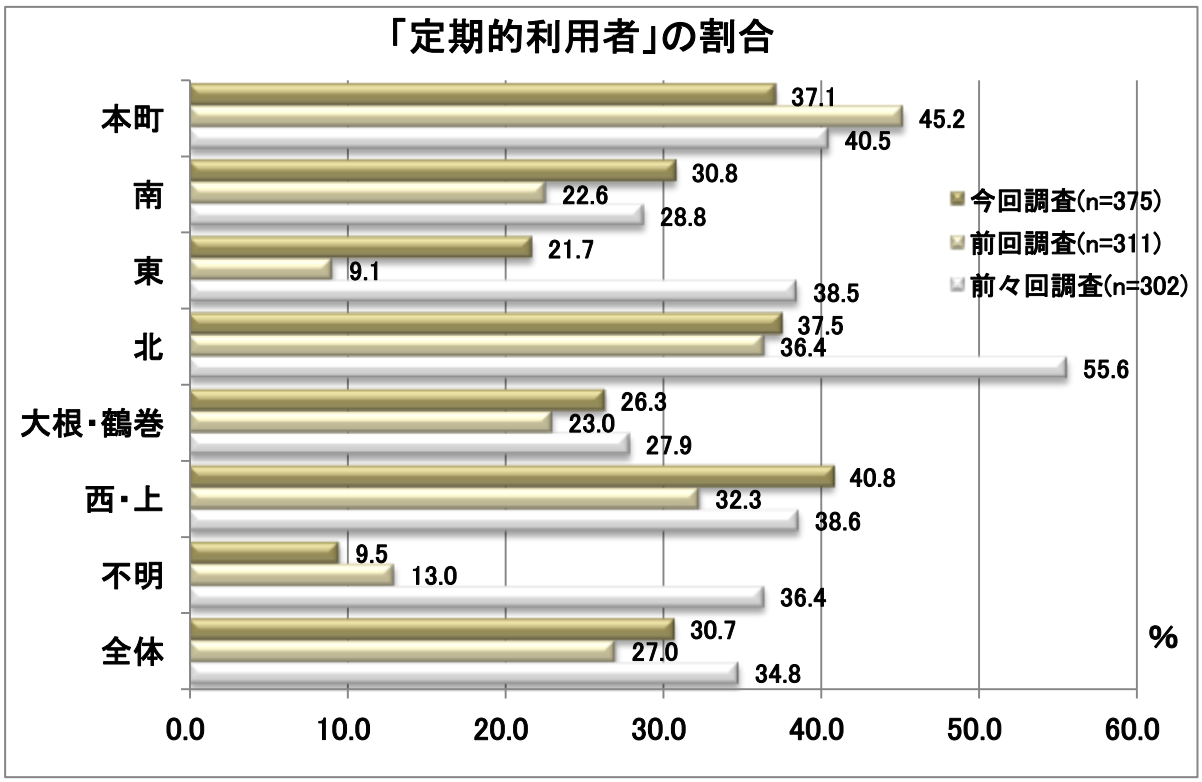


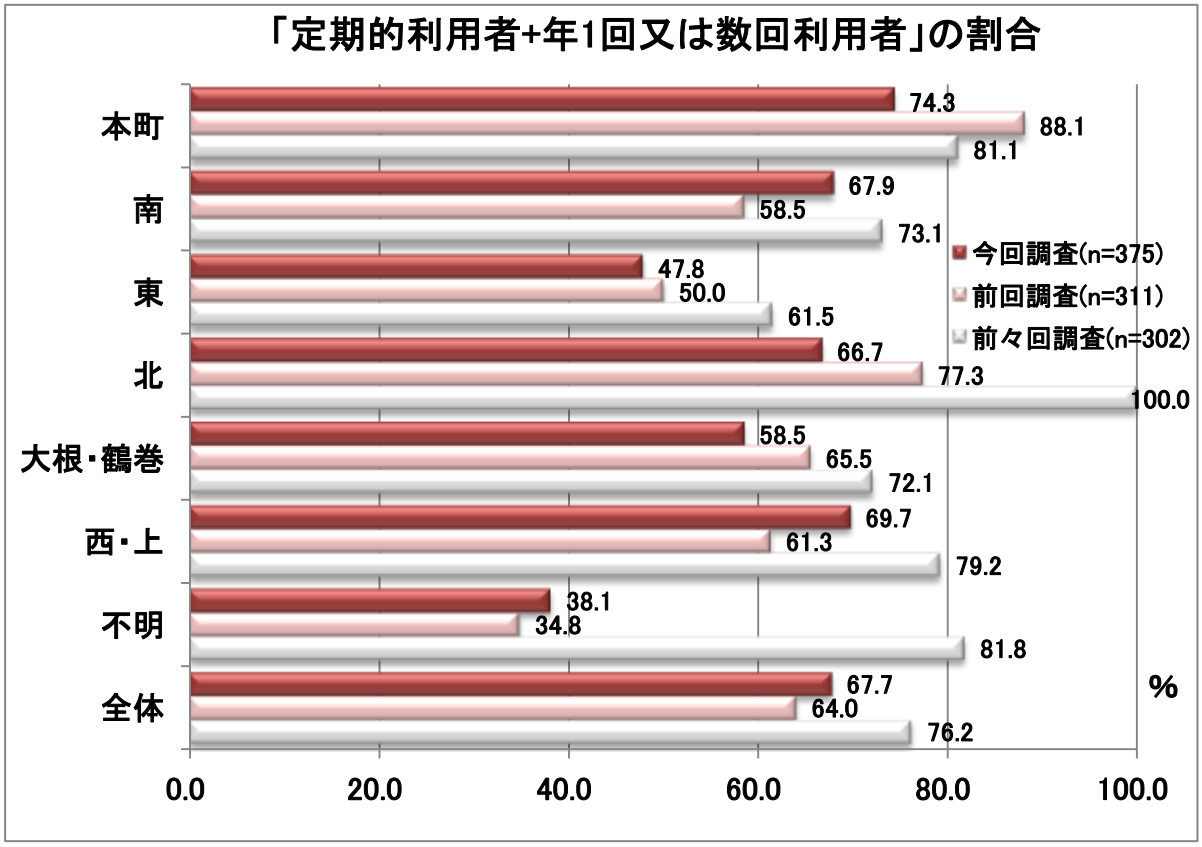
◆　地区別の前回までの調査との比較

地区別の集計結果を前回調査の結果と比較すると、次に表すとおりとなります。

前回調査との比較では、定期的利用者は、全体で 3.7 ポイント増加し、地区ごとの集計でも、本町地区を除き、増加しています。

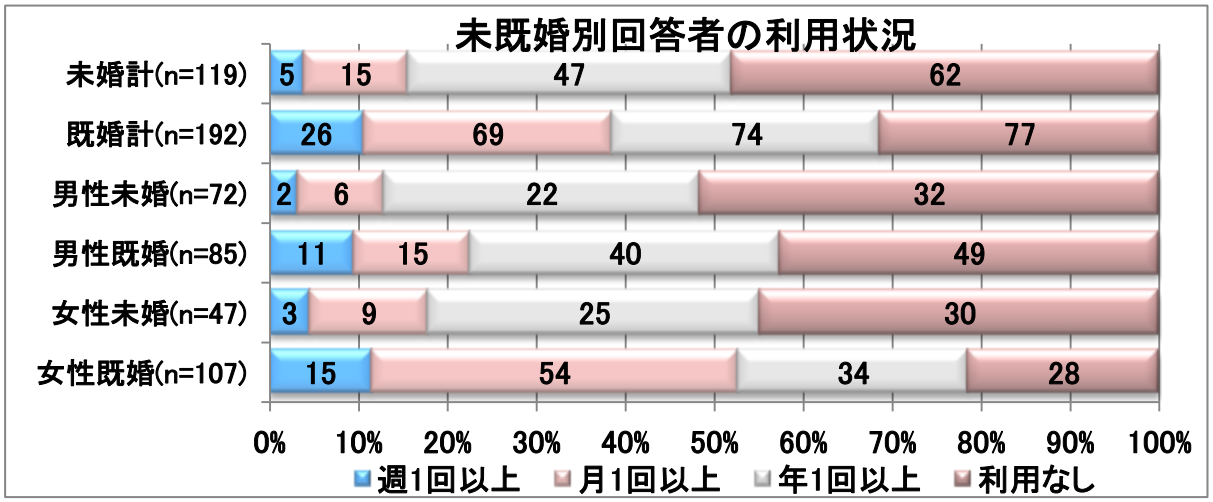
前々回調査からの 3 回の調査の傾向では、本町地区、北地区及び西・上地区で定期的利用者の割合が安定して高いことが分かります。





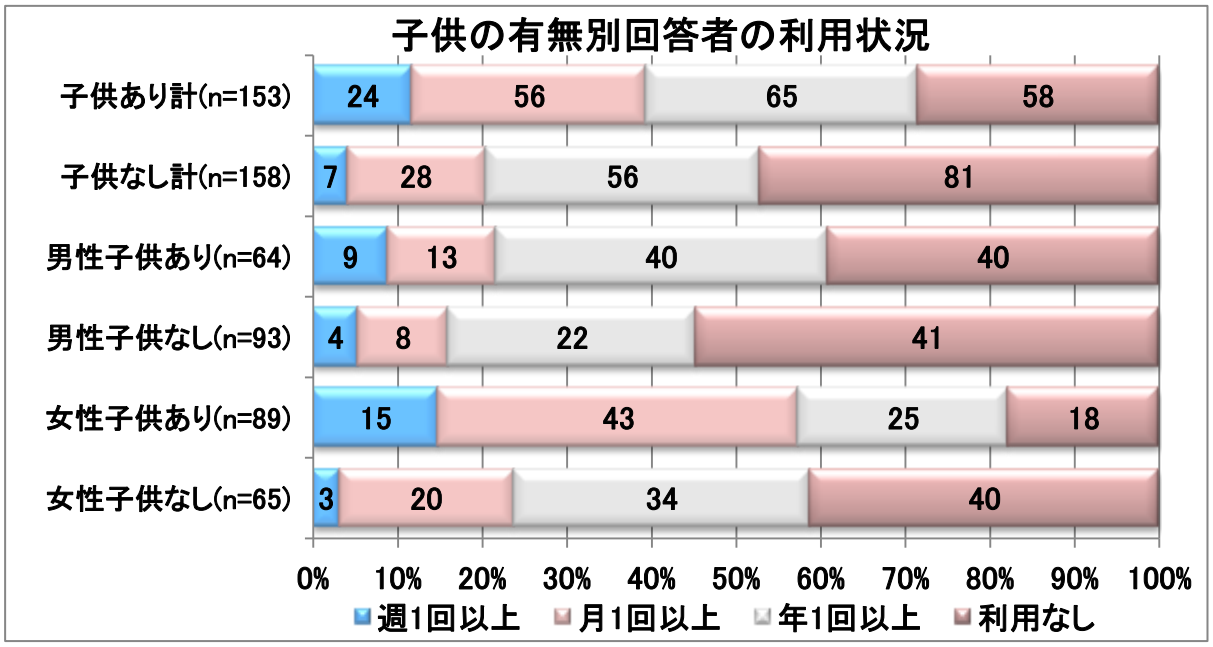
◆　未既婚別の比較

公共施設利用者の割合は、全体、男女ともに既婚者のほうが高く、その中でも、女性の既婚者の割合が特に高くなっています。



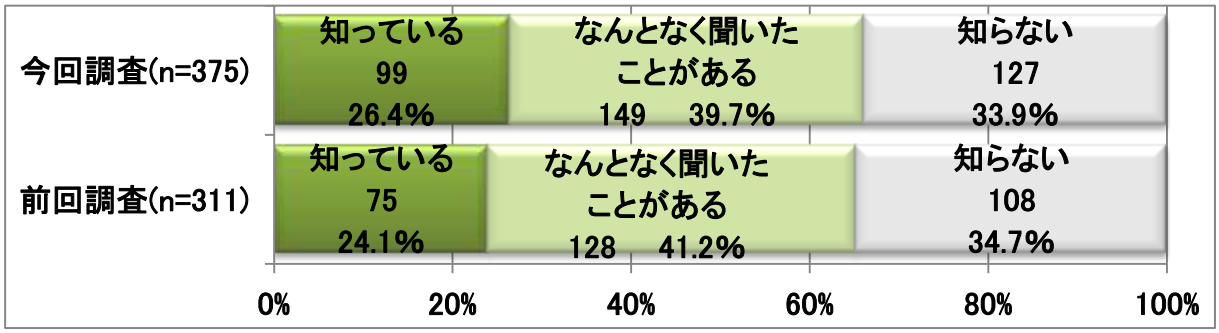
◆　子供の有無別の比較

全体、男女ともに子供ありと回答した人の方が公共施設の利用率が高くなっています。



質問３　日本では、昭和 40 年代から 50 年代にかけて、高度経済成長や都市化の進展に伴い、道路や橋を含めた公共施設を一斉に整備しました。現在これらの公共施設は、一斉に老朽化しつつあり、また、近い将来、一斉に作り直さなければいけない時期を迎えますが、住民の高齢化と人口減少が進む中で財政状況は悪化し、すべての公共施設を維持することが難しくなります。このことは、「公共施設の更新問題（老朽化問題）」と言われていますが、あなたは、このことをご存知でしたか。

◆　「知っている」、「なんとなく聞いたことがある」と答えた者の割合が 3 分の 2 近くを占め、前回調査よりも、認知度がやや高まっています。

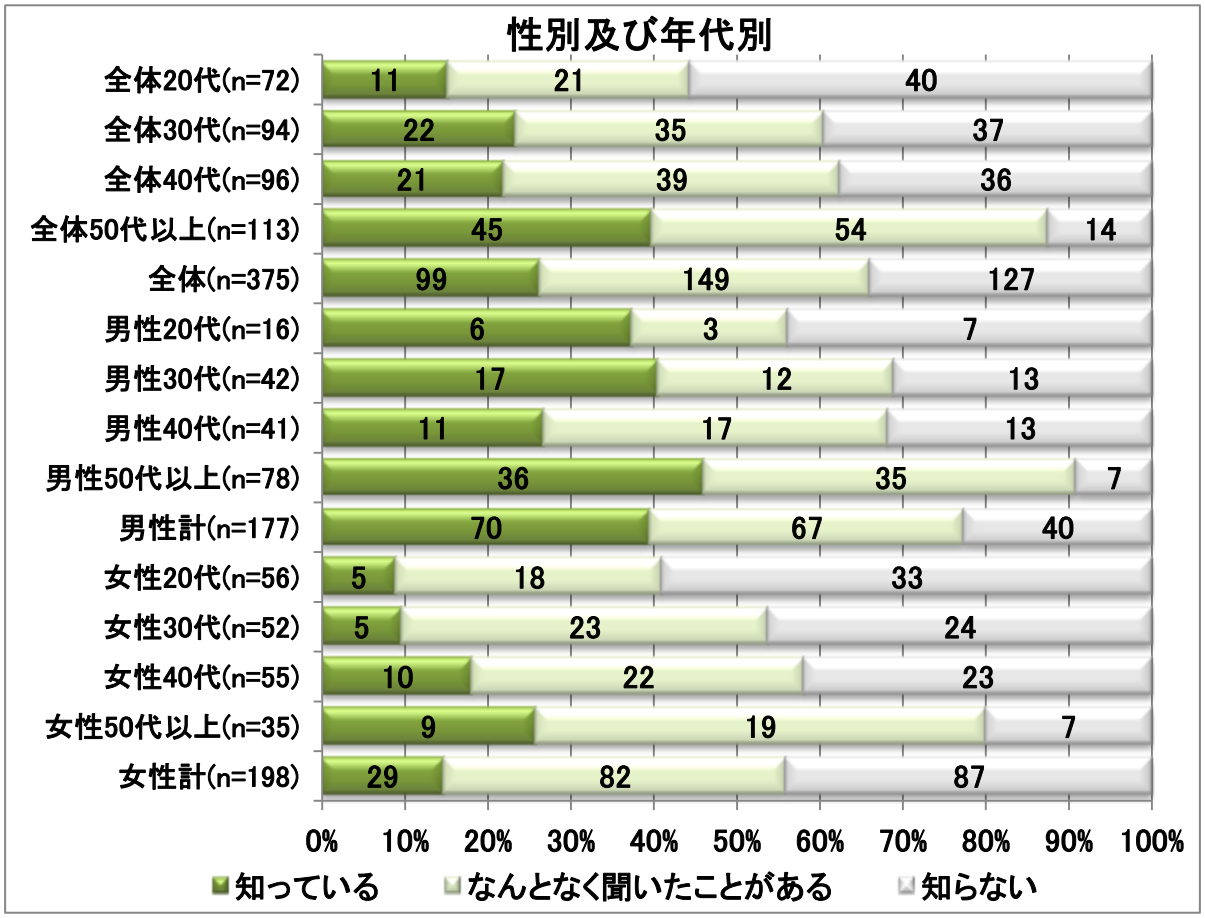


◆ 性別及び年代別の比較

「知っている」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では男性、年代では 50 代以上となり、50 代以上の男性の 46.2%が最高となりました。

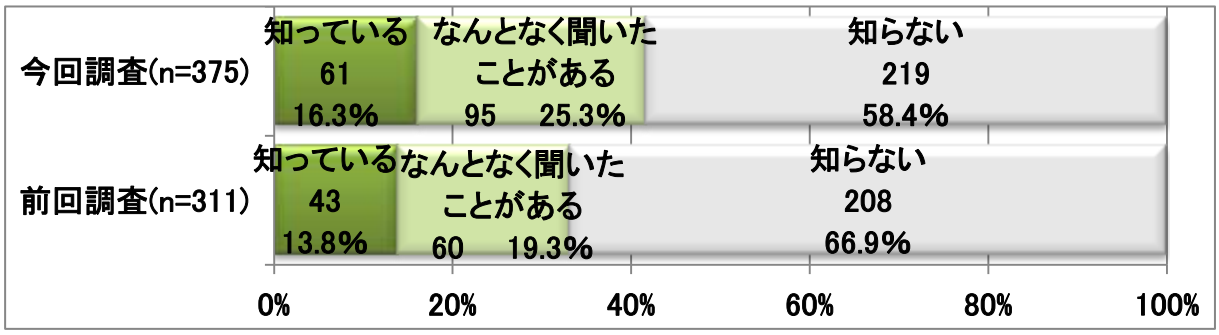
「知っている」と「なんとなく聞いたことがある」を足した割合は、年代が上がるにつれて高くなり、性別は男性、年代では 50 代以上が最も高く、50 代以上の男性では、91.0%に上ります。

また、「知らない」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では 20 代となり、20 代の女性の 58.9%が最高となりました。



質問４　現在秦野市は、この「公共施設の更新問題(老朽化問題)」に対応するため、「公共施設の再配置」を進めています。あなたは、このことをご存知でしたか。

◆ 「知っている」と回答した人では 2.5 ポイント、「なんとなく聞いたことがある」と回答した人では 6 ポイントそれぞれ増加しており、2 つを合わせると、前回よりも 8.5 ポイント増となる、およそ 4 割の市民が本市の取組みを認知していました。

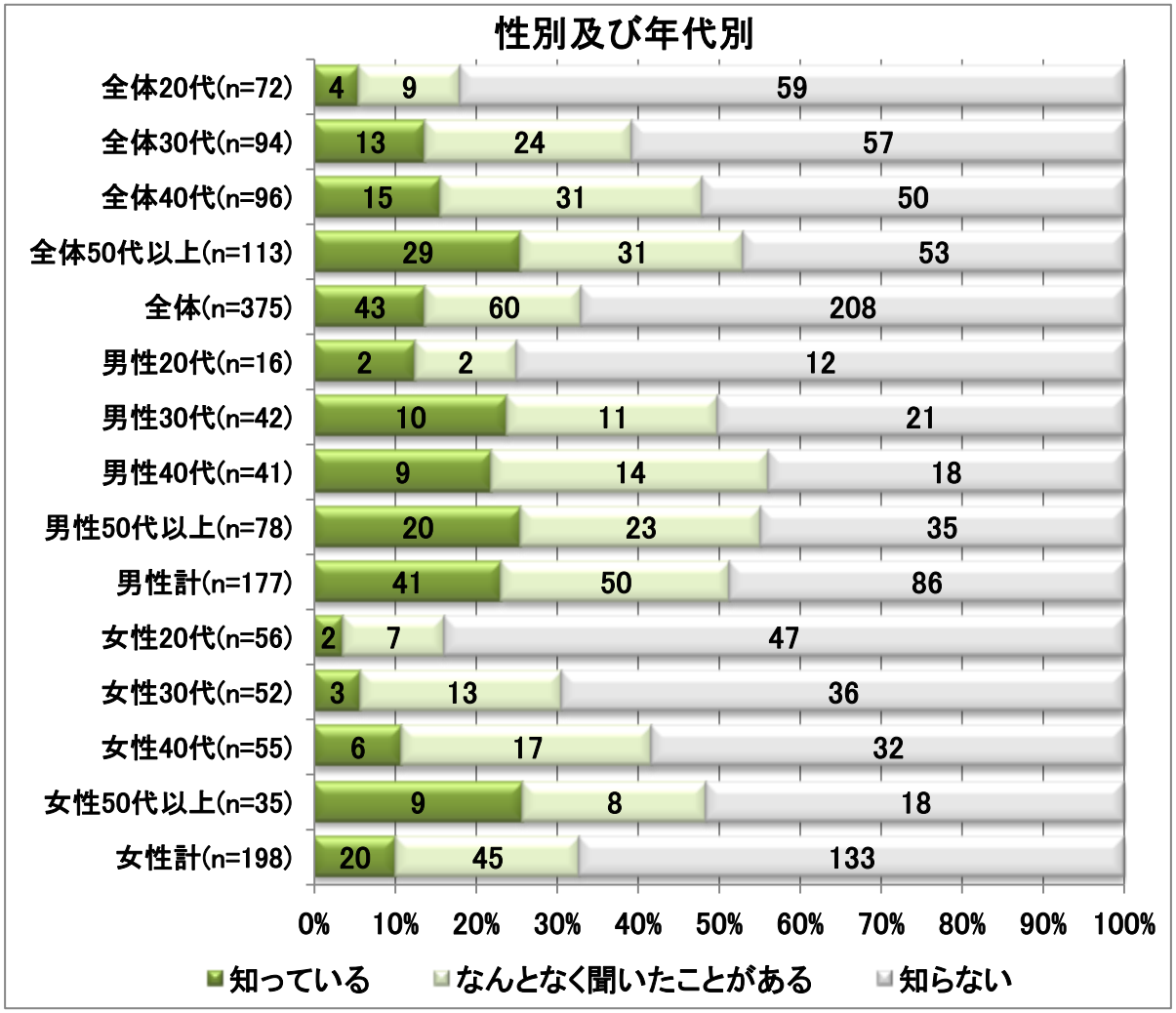


◆　性別及び年代別の比較

「知っている」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では男性、年代では 50 代以上となり、50 代以上の男性の 25.6%が最高となりました。

「知っている」と「なんとなく聞いたことがある」を足した割合は、年代が上がるにつれて高くなり、性別は男性、年代では 50 代以上が最も高く、40 代の男性の 56.1%が最高となりました。

また、「知らない」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では 20 代となり、20 代の女性の 83.9%が最高となりました。

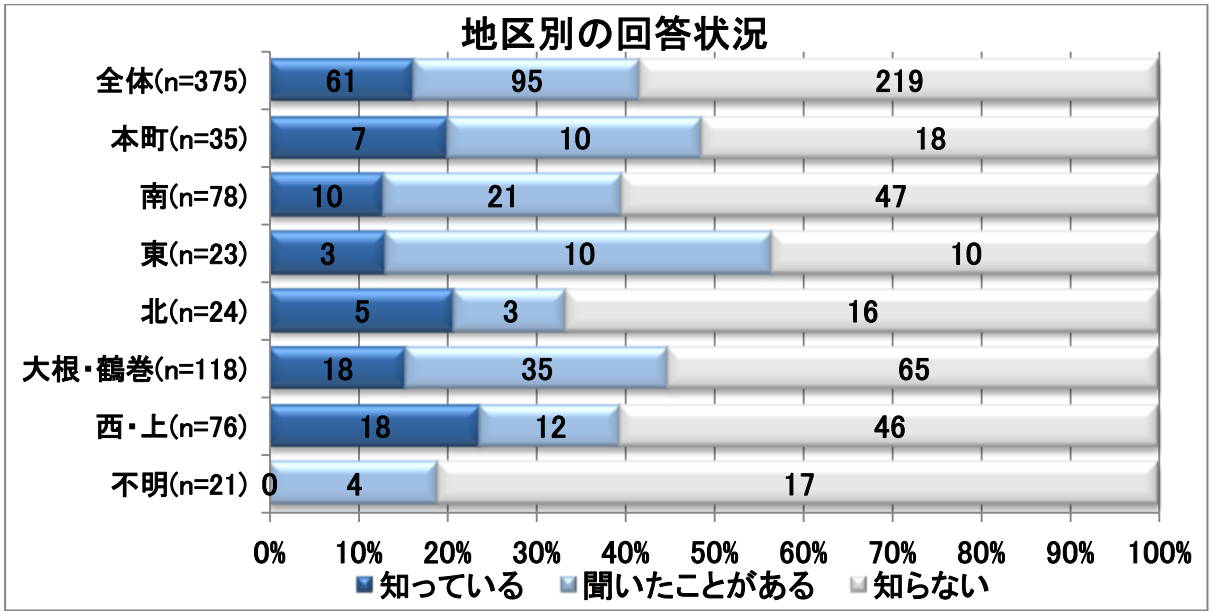


◆　地区別の比較

「知っている」と回答した者の割合が最も高かったのは、義務教育施設と地域施設の複合化事業が進む西・上地区となりました。

また、「知っている」と「なんとなく聞いたことがある」の回答を足した割合が最も高かったのは、東地区となりました。

なお、「知らない」と回答した者の割合が最も高かったのは、北地区となりました。

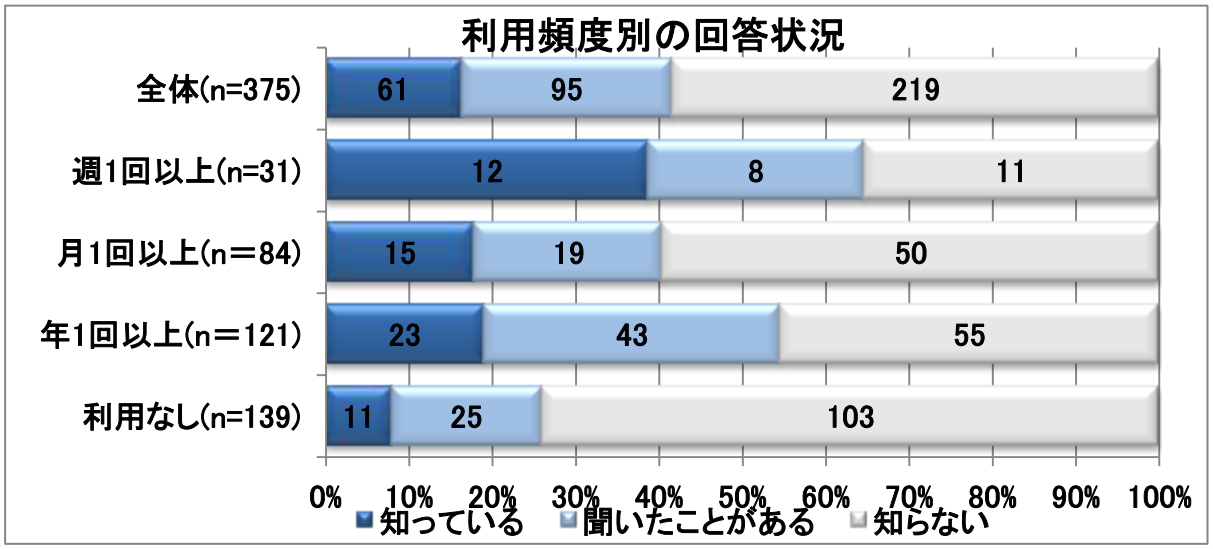


◆　公共施設利用頻度別の比較

「知っている」と回答した人の割合が最も高いのは、過去１年間で公共施設を週に１回以上利用している回答者となりました。

「知っている」と「なんとなく聞いたことがある」の両者を合わせると、週に１回以上利用している人の 64.5%が本市の取組みを認知している結果となりました。

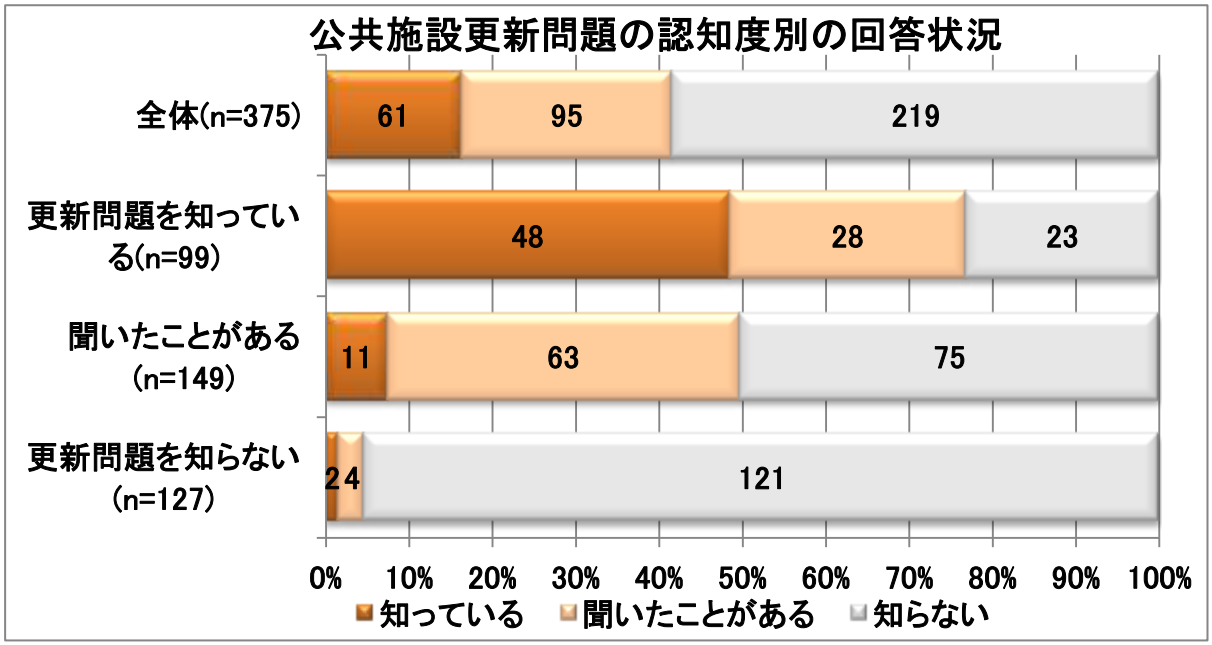
一方で、公共施設の利用がない人の認知度は、25.9%にとどまりました。



◆　更新問題認知度別の比較

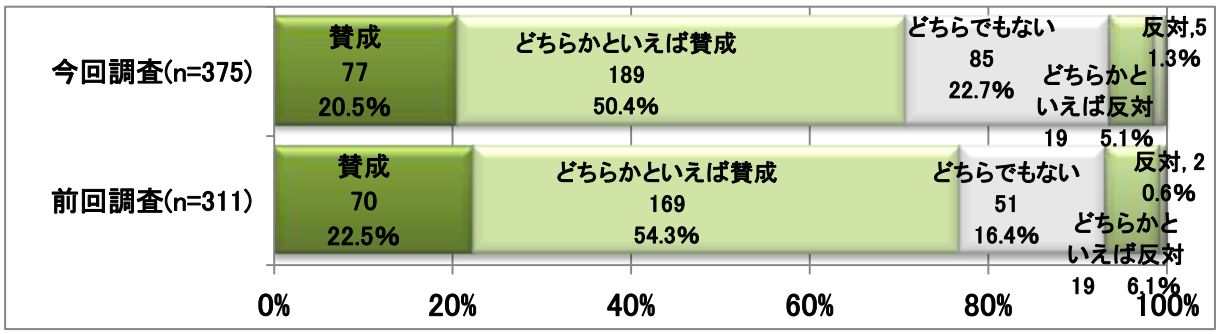
本市の取組みを「知っている」と答えた者の割合が最も高いのは、更新問題も知っていると回答した人となりました。

「知っている」と「なんとなく聞いたことがある」の両者を合わせた割合が最も高いのは、更新問題を知っていると回答した人の 76.8%となりました。



質問５　秦野市が進めている「公共施設の再配置」は、できるだけ施設の機能を維持する方法を考えながら、４０年間で３１%の公共施設（床面積）を減らすことにより、人口減少と市民の高齢化が進む中でも、義務教育をはじめとする真に必要性の高い公共施設サービスを、将来にわたり良好な状態で維持していこうとするものです。このことに対するあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

◆　「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答した人の割合が、前回調査より 5.9 ポイント減の 70.9%となり、「反対」、「どちらかといえば反対」と回答した人は、同じく 0.4 ポイント減の 6.4%となりました。

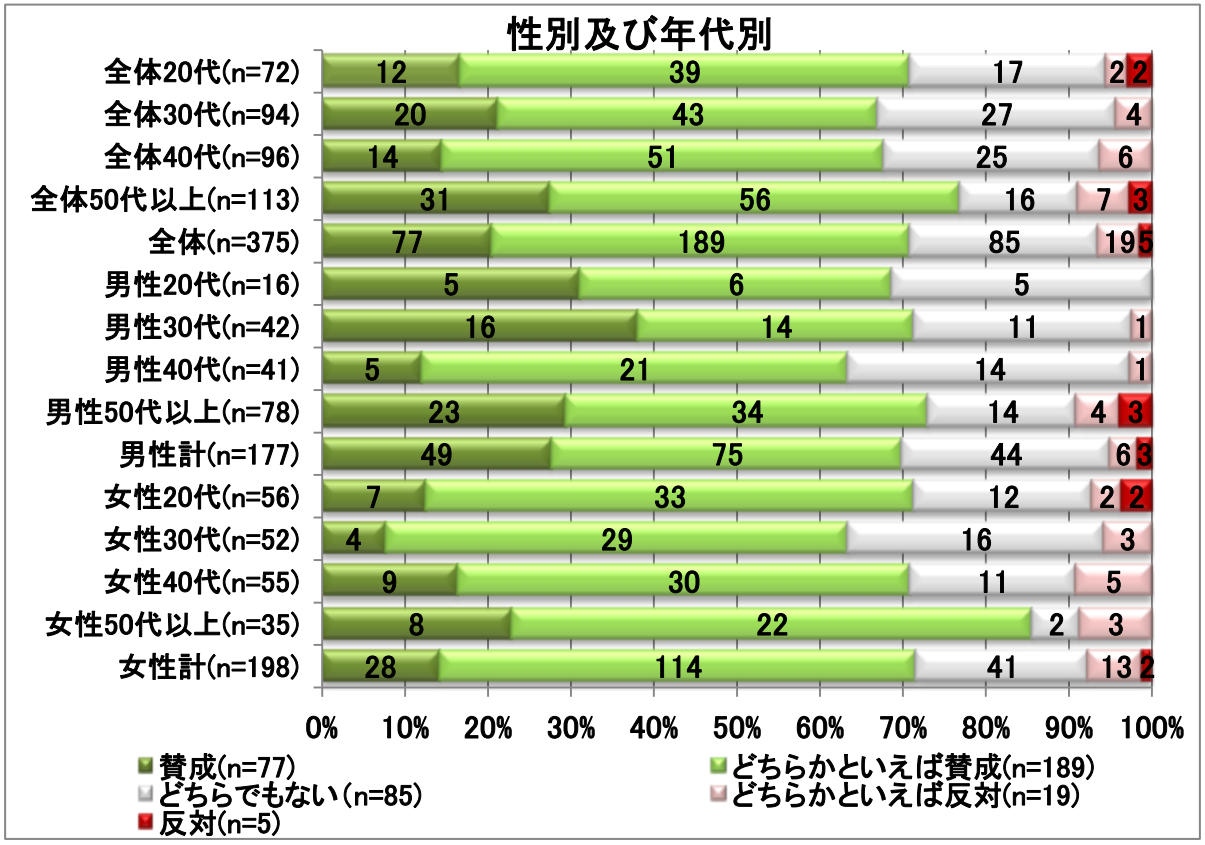


◆　性別及び年代別の比較

「賛成」と回答した人の割合が最も高かったのは、性別は男性、年代は 50 代以上となり、30 代男性の 38.1%が最高となりました。

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した人の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では 50 代以上で、50 代以上女性の 85.7%が最高となりました。

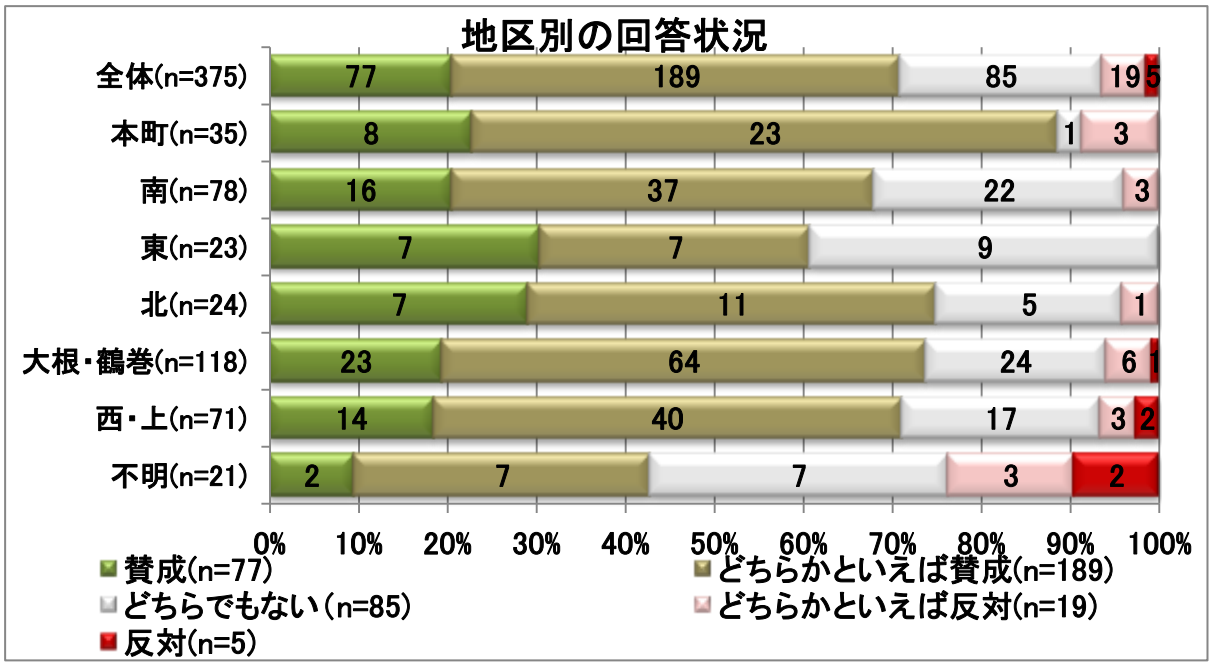
また、「反対」又は「どちらかといえば反対」と回答した者の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では 50 代以上となり、40 代の女性の 9.1%が最高となりました。



◆　地区別の比較

「賛成」と回答した者の割合が最も高いのは東地区、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と回答した人の割合が最も高いのは本町地区となりました。

また、「反対」又は「どちらかといえば反対」と答えた者の割合が最も高いのも本町地区となりました。

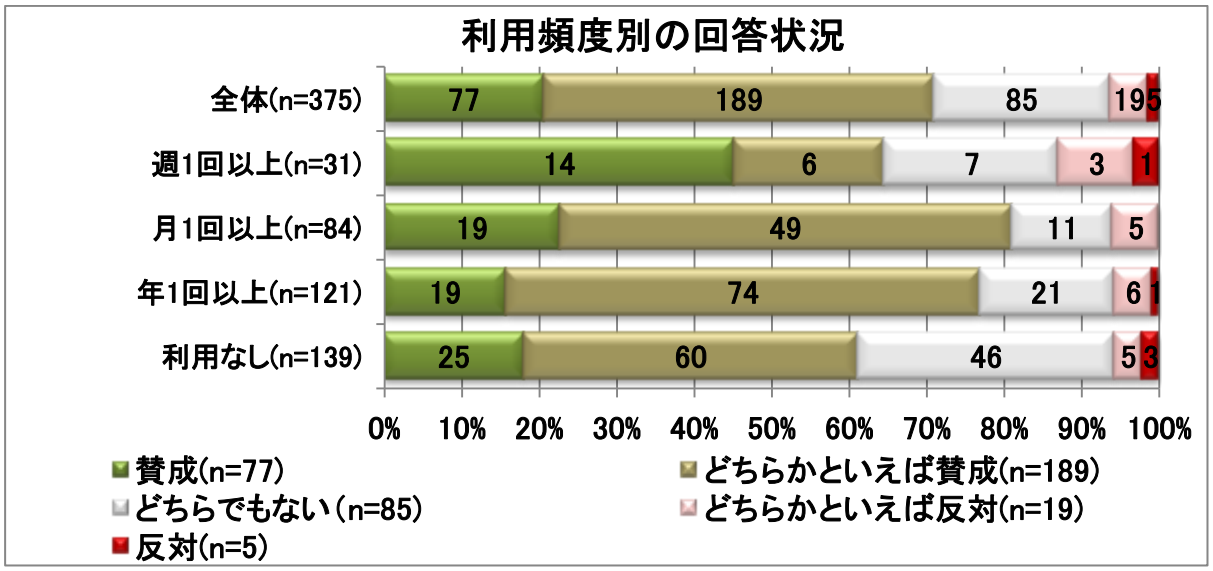


◆　公共施設利用頻度別の比較

「賛成」と回答した人の割合が最も高かったのは、過去１年間に公共施設を週に１回以上利用していると回答した人となりました。

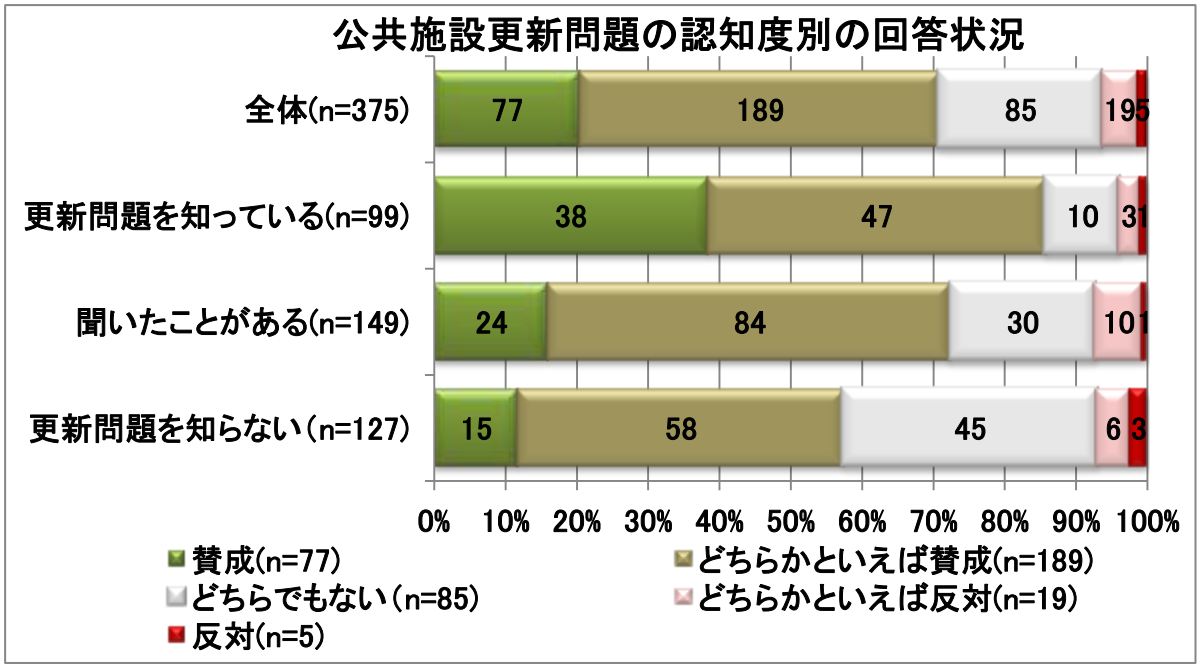
また一方で、「反対」又は「どちらかといえば反対」と回答した人の割合が最も高かったのも、週に１回以上利用していると回答した人でした。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」の両者を合わせた割合が最も高いのは、月に１回以上利用したと回答した人となりました。



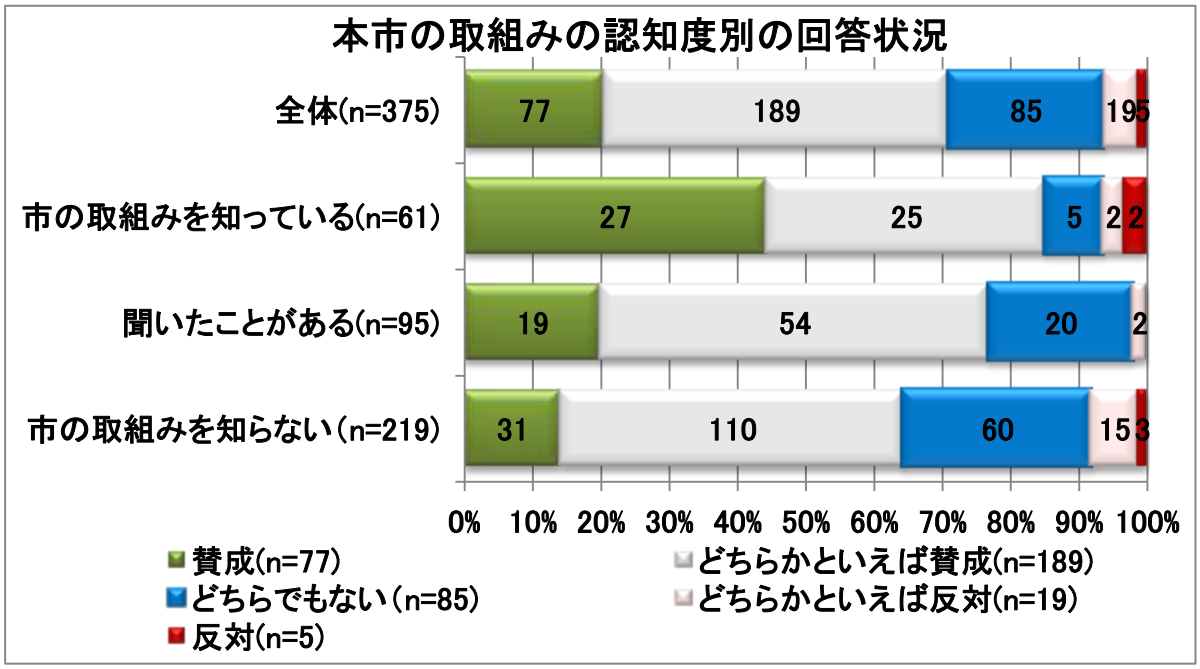
◆　更新問題認知度別の比較

「賛成」と答えた人の割が最も高くなるのは、更新問題を知っていると答えた人であり、「どちらかといえば賛成」と答えた人を合わせると、更新問題を知っている人の 85.9%が賛成を示しています。



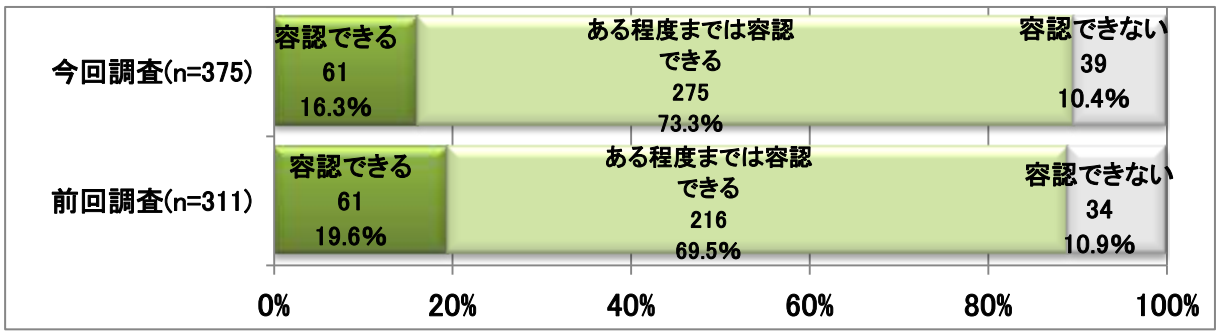
◆　本市の取組み認知度別の比較

「賛成」と答えた人の割が最も高くなるのは、本市の取組みを知っていると答えた人であり、「どちらかといえば賛成」と答えた人を合わせると、本市の取組みを知っている人の 85.2%が賛成を示しています。



質問６　「公共施設の再配置」を進めると、施設の統合や廃止により、今まで利用できた施設が利用できなくなったり、使用料が値上がりする場合もあります。このことに対するあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

◆　「容認できる」と回答した人は 16.3%で、前回調査と比較すると 3.3 ポイント減少していますが、「ある程度までは容認できる」と回答した人と合わせると、89.6%となり、概ね前回調査と同じ割合となっています。

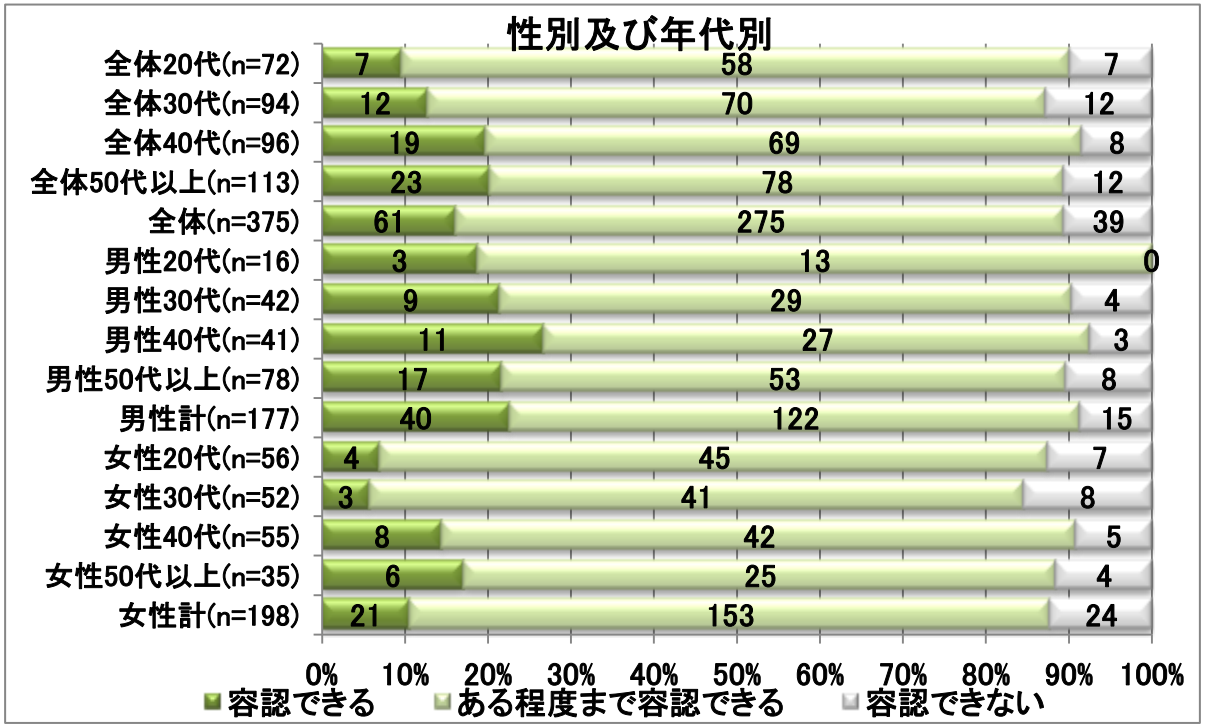


◆　性別及び年代別の比較

「容認できる」と回答した人の割合が最も高かったのは、性別では男性、年代では 50 代以上となり、40 代の男性の 26.8%が最高となりました。

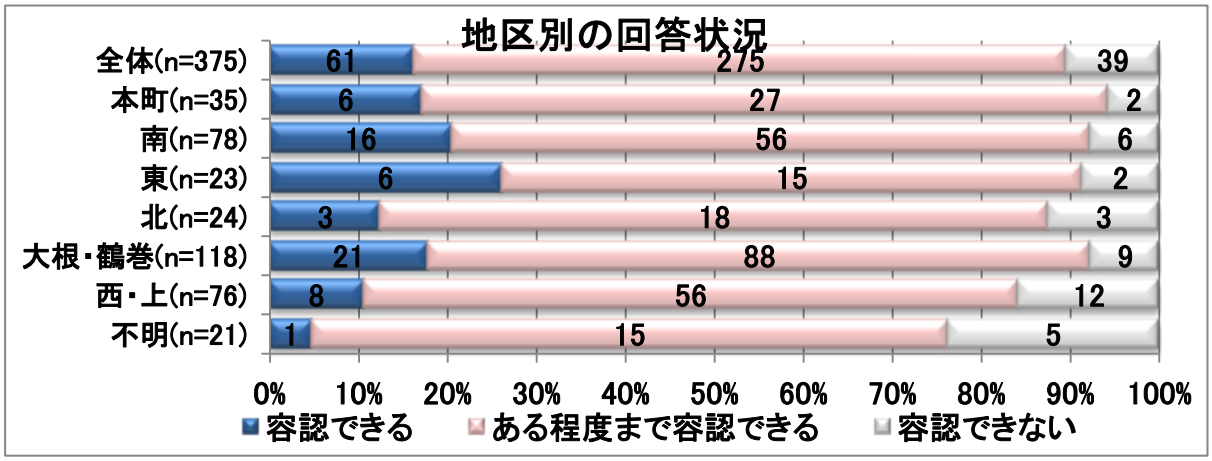
「容認できる」と「ある程度までは容認できる」とを合わせた割合が最も高かったのは、性別は男性、年代は 40 代となり、20 代の男性では 100%となりました。

また、「容認できない」と回答した人の割合が最も高かったのは、性別では女性、年代では 30 代となり、30 代の女性の 15.4%が最高となりました。



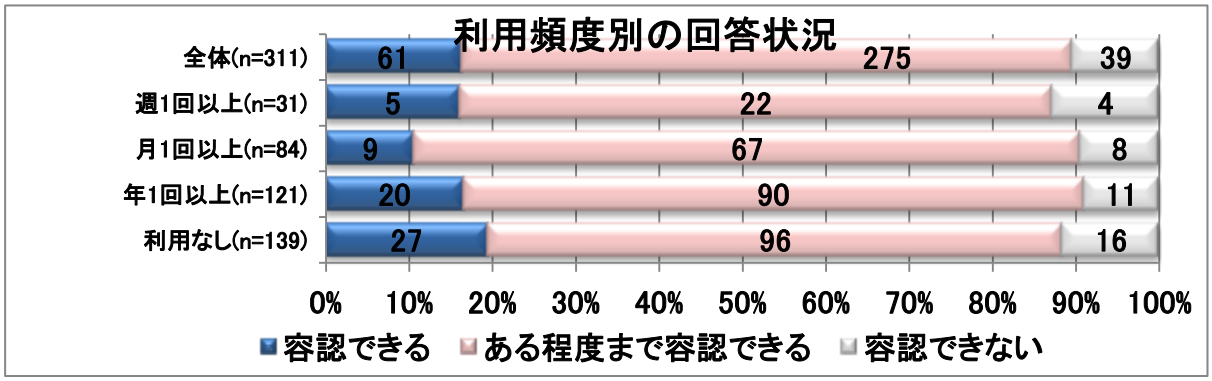
◆　地区別の比較

「容認できる」と回答した人の割合が最も高かったのは、東地区となり、「容認できない」と回答した人の割合が最も高かったのは、西・上地区となりました。



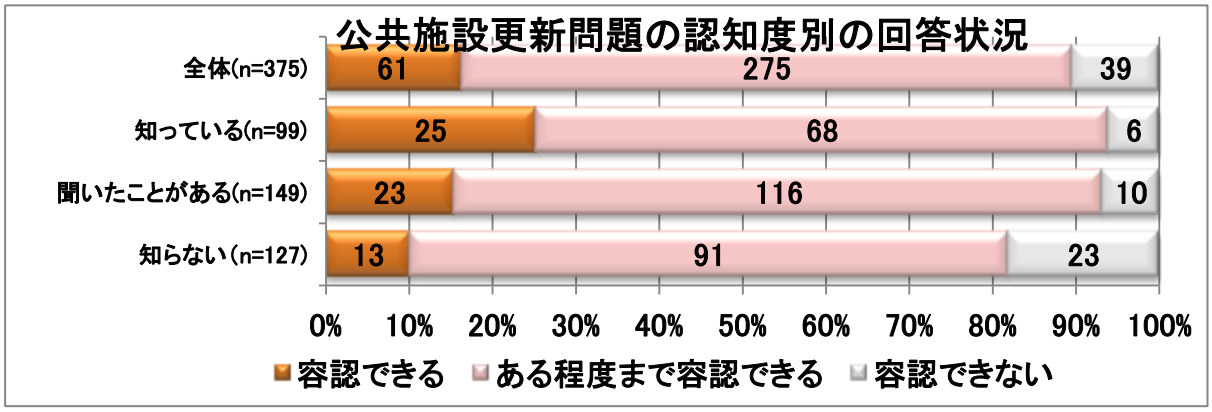
◆　公共施設利用頻度別の比較

利用頻度によって大きな差はありませんが、「容認できない」と回答した人の割合は、週に１回以上利用していると回答した人で最も高くなっています。



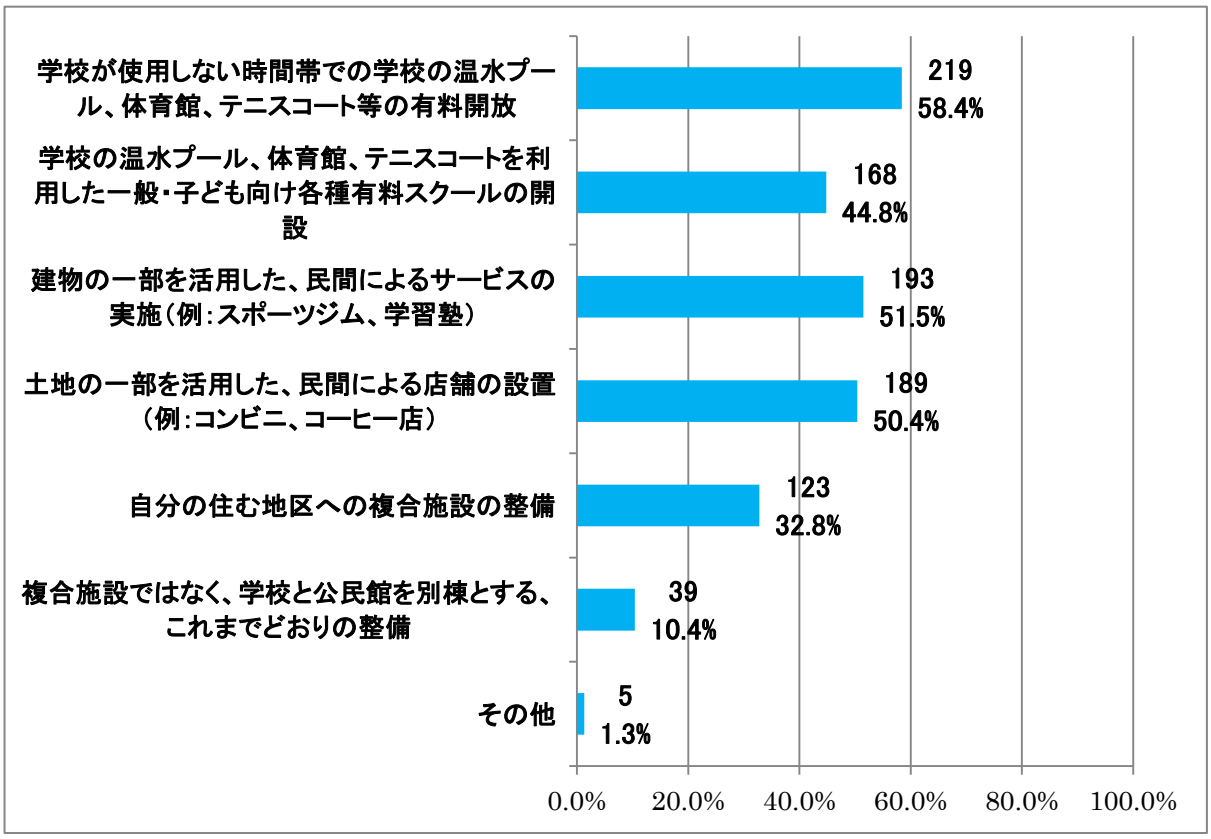
◆　更新問題認知度別の比較

「容認できる」と答えた人の割合が最も高いのは、更新問題を知っていると回答した人となり、「容認できない」と回答した人の割合が最も高くなるのは、更新問題を知らないと答えた人となりました。



質問７　秦野市では、「公共施設再配置」の取組の１つとして、西中学校の体育館やプール、西公民館の老朽化に合わせて、これらを複合化した、学校機能と生涯学習機能を併せ持つ新たな施設として建て替えることとしています。このような複合施設では、民間のノウハウを活用し、複数の施設を合築することで、全体の経費を抑えるとともに、学校施設の有効利用や民間による様々な事業が実施されることが期待できます。こういった複合施設に対して、あなたの希望や考えに近いものを選んでください。（いくつでも）

◆　温水プールや体育館、テニスコート等の有料開放を希望する人が約 6 割に達するなど、複合施設の開放や活用を望む人が約半数に達しました。



【その他の内容】

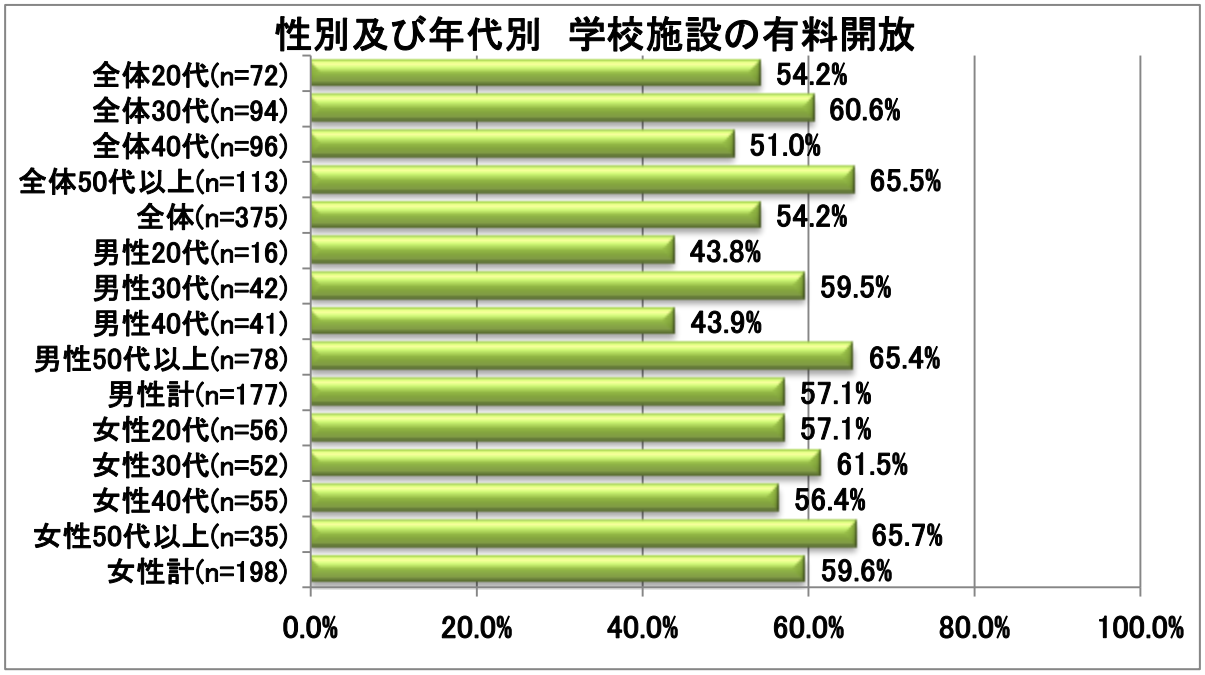
内　　容	性別	年代
個人の趣味のための施設なら税金を使わなくても良い。どんどん民間がやるべき。	男性	30 代
わからない	女性	50 代
なんでもいい	男性	20 代
学校内に公民館業務をできるようにしたり施設を利用するなど。多施設はいらない	女性	40 代
有料ではなく無料解放してもらえる方がより良い	女性	30 代

◆　性別及び年代別の比較

【学校が使用しない時間帯での学校の温水プール、体育館、テニスコート等の有料開放】

性別では、やや女性が希望する割合の方が高く、年代では50代以上が最高となりました。

50代以上の男女とも、65%を超え、高い割合となっていますが、20代及び40代の男性では、44%程の割合となっています。

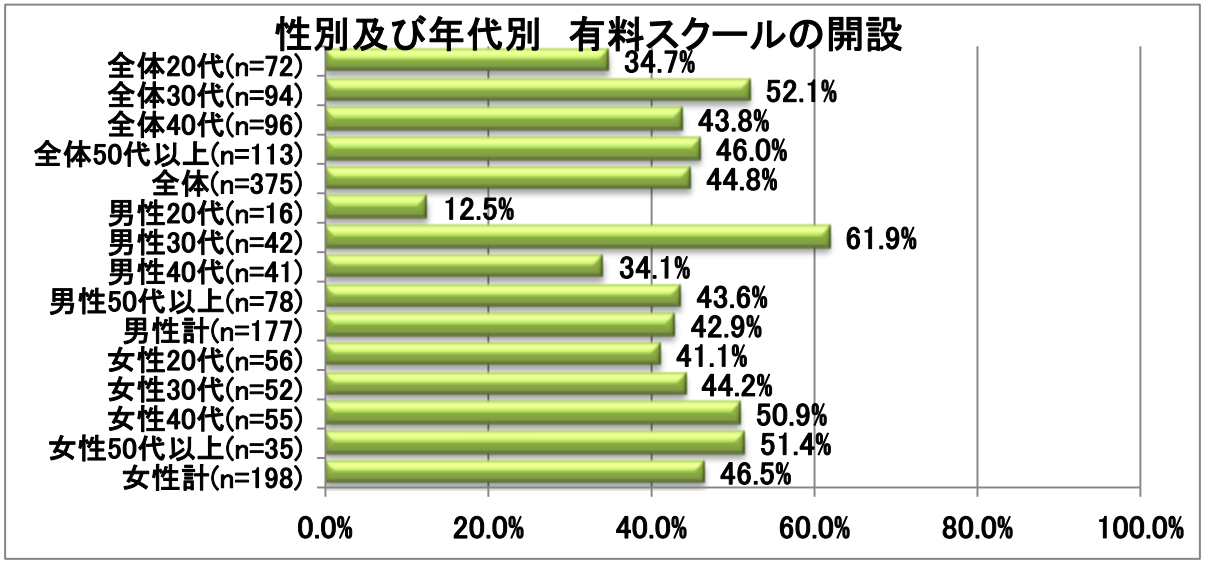


【学校の温水プール、体育館、テニスコートを利用した一般・子ども向け各種有料スクールの開設】

性別では、やや女性の希望する割合の方が高く、年代では、30代が最高となりました。

特に、30代男性では61.9%と、他と比較して高い割合を示しています。

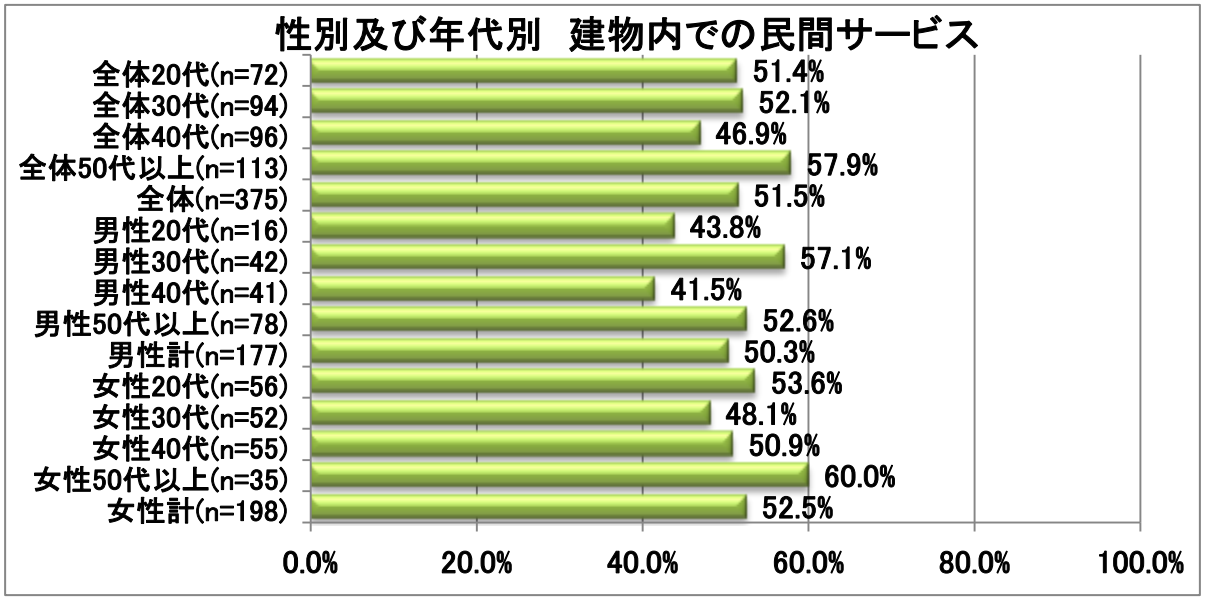
一方で、20代男性では12.5%と、特に低い結果となりました。



【建物の一部を活用した、民間による店舗の設置（例：スポーツジム、学習塾）】

性別では、やはり女性が希望する割合がやや高く、年代では 50 代以上が最高となりました。

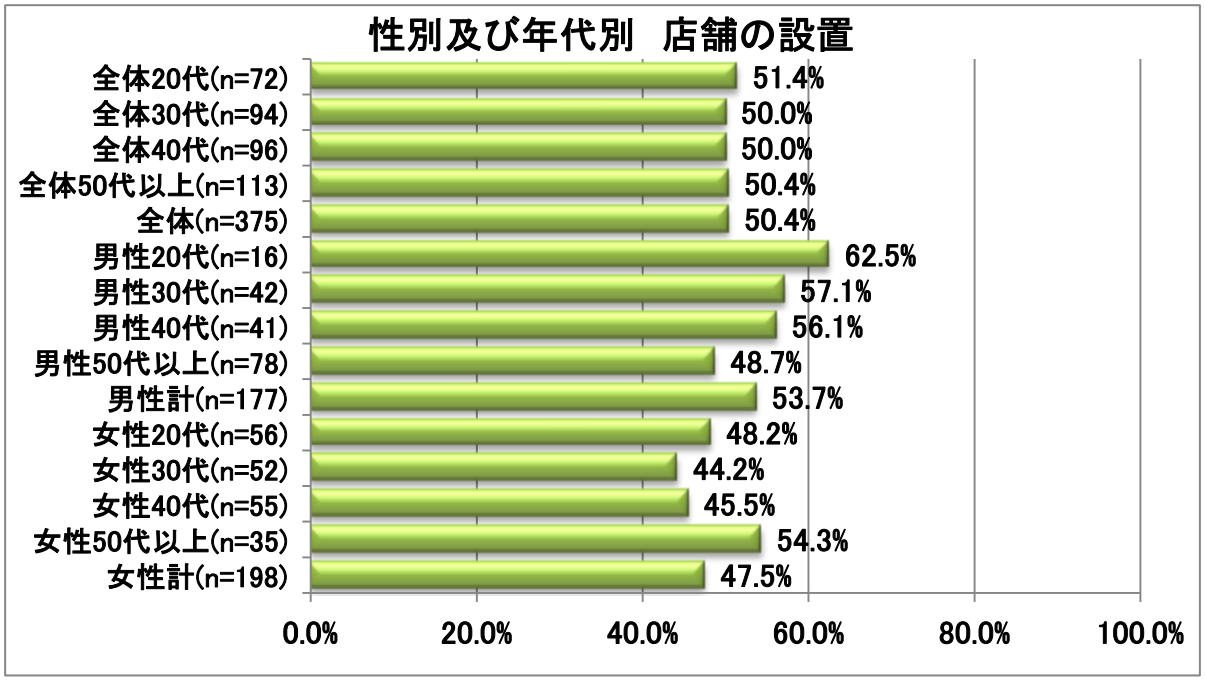
施設の有料開放の希望結果と同様、50 代以上の女性で希望する割合が最も高く、20 代及び 40 代男性で低くなっています。



【土地の一部を活用した、民間による店舗の設置（例：コンビニ、コーヒー店）】

性別では、男性が希望する割合の方が高くなっています。

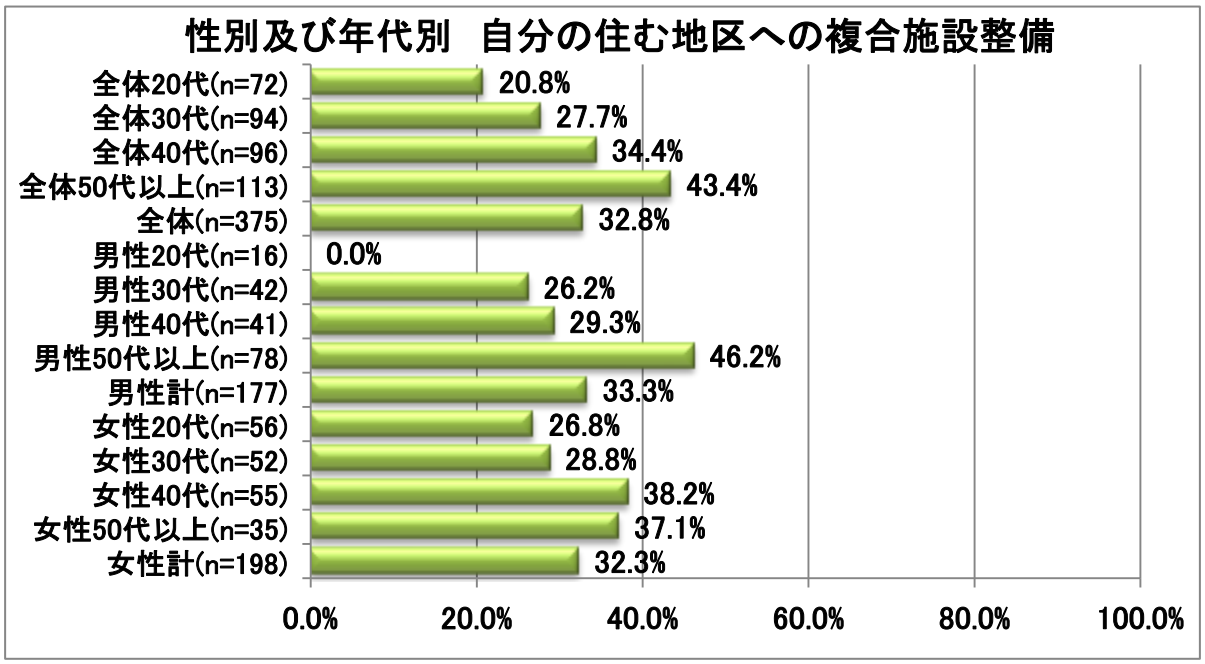
全体の年代での差異はありませんが、男性の若い世代ほど希望する割合が高くなっています。



【自分の住む地区への複合施設の整備】

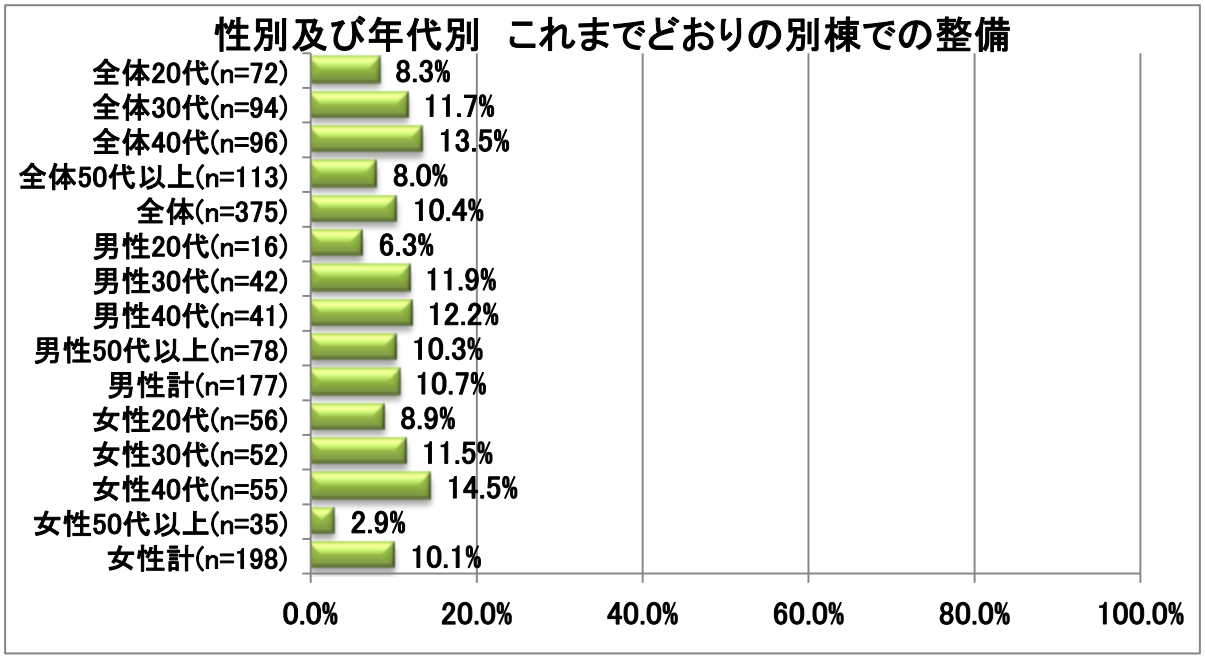
性別での差異は、あまりありません。

年代では、年齢の高い世代ほど、希望する割合が高くなっており、特に 50 代以上の男性で高くなっています。



【複合施設ではなく、学校と公民館を別棟とする、これまでどおりの整備】

男女、各世代ともに 10%前後の割合を示す中、50 代以上の女性では、2.9 と低くなっています。

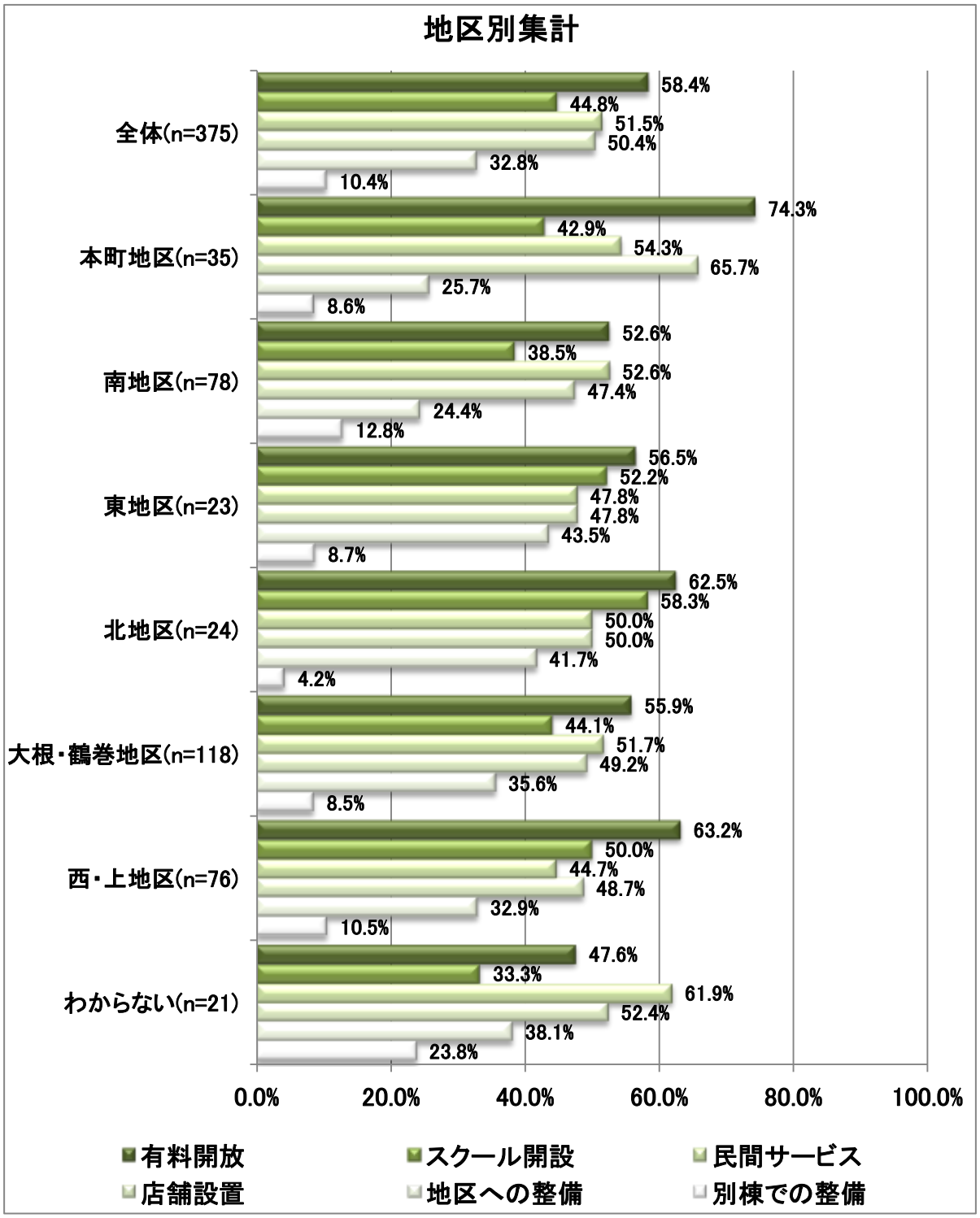


◆　地区別の比較

学校施設の有料開放の希望は、本町地区で 74.3%と特に高く、西・上地区及び北地区でも 60%を超えています。

また、本町地区は、店舗の設置を希望する割合も 65.7%と高くなっています。

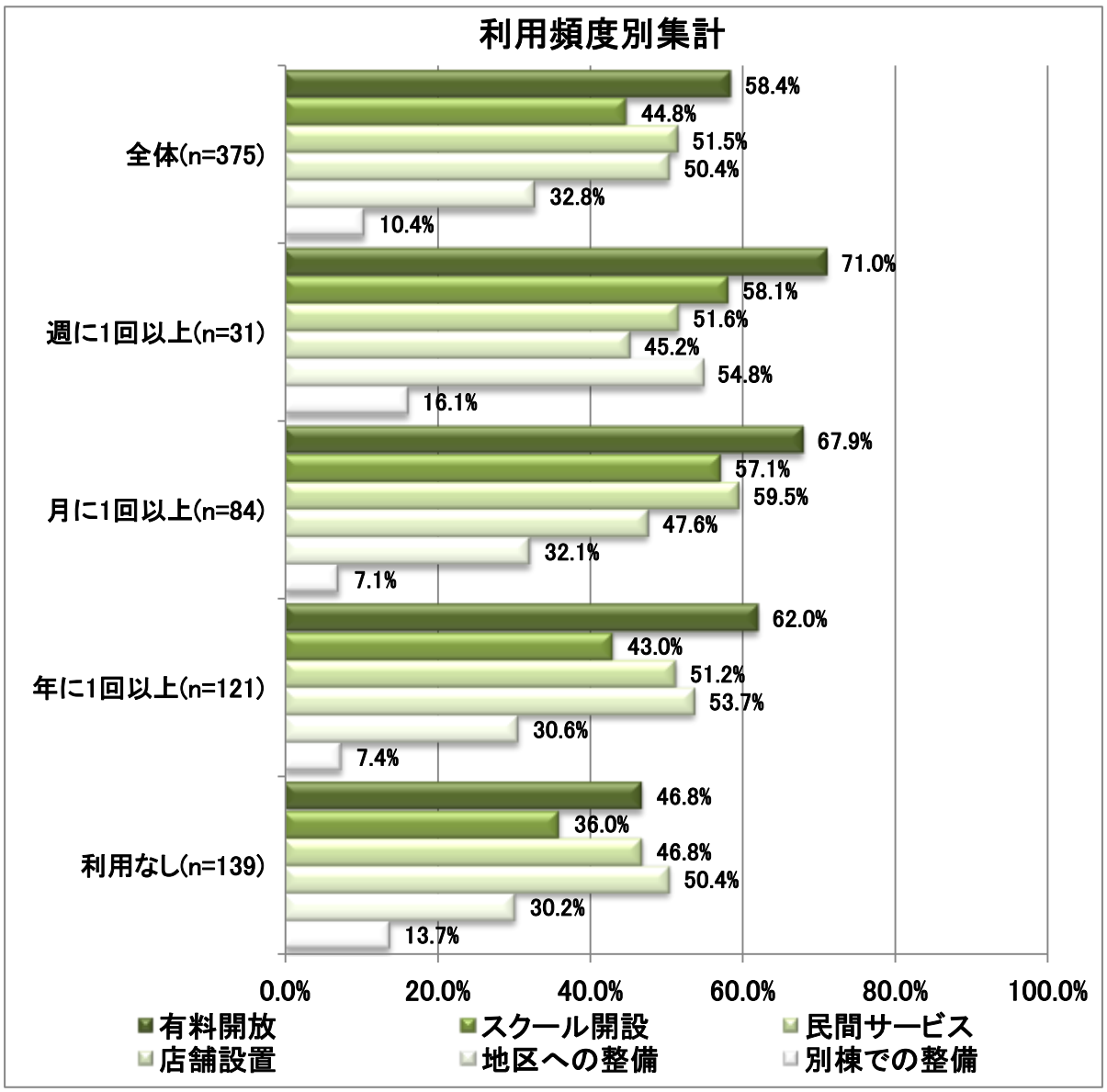
自分の住む地区への複合施設の整備については、東地区や北地区で 40%を超え、比較的高い割合を示しています。

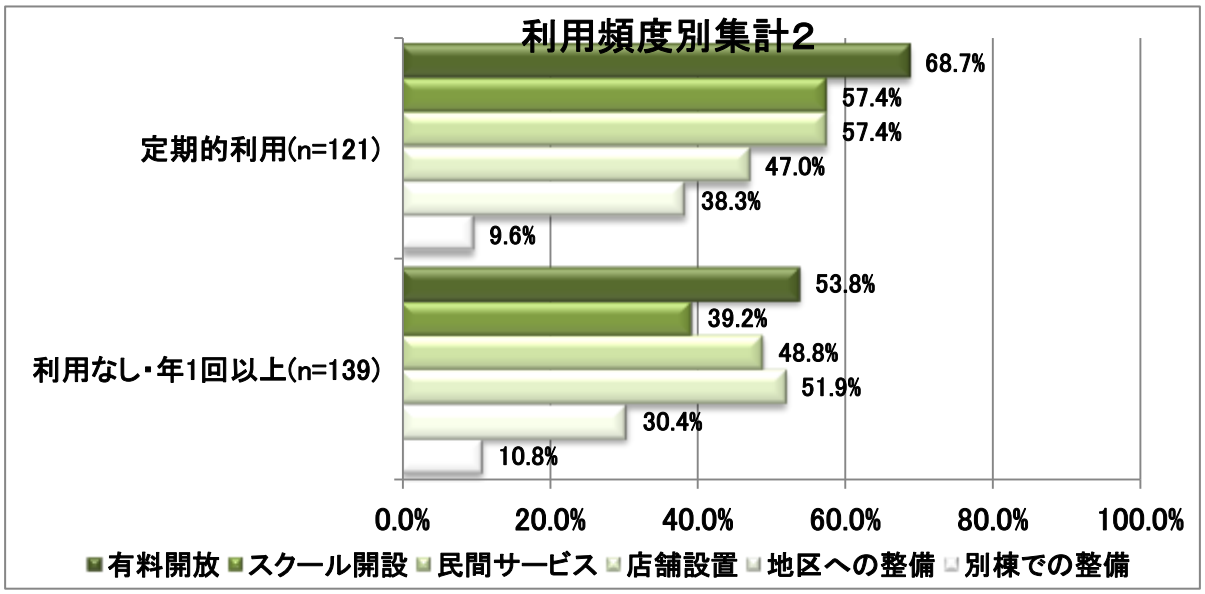


◆　公共施設利用頻度別の比較

学校施設の有料開放では、公共施設の利用頻度が高いほど、希望する割合も高くなりました。

また、週１回以上又は月１回以上利用する定期的利用者と、利用なし又は年１回以上の利用者とに分けると、定期的利用者の方が、学校施設の有料開放や有料スクールの開設、施設での民間サービスの実施等、施設自体の充実という点を希望している傾向が見られました。一方で、民間店舗の設置では、利用頻度が低いグループの方が希望する割合が高い結果となりました。





質問８　秦野市では、平成 26 年 11 月に「公共施設の利用者負担の適正化に関する方針」を策定し、現在の使用料の 2.5 倍の額を限度として、公共施設の使用料を見直すこととしています。

この方針の中で示している本町公民館の会議室の 1 時間当たりのコストと現在の使用料は、次のとおりとなっています。

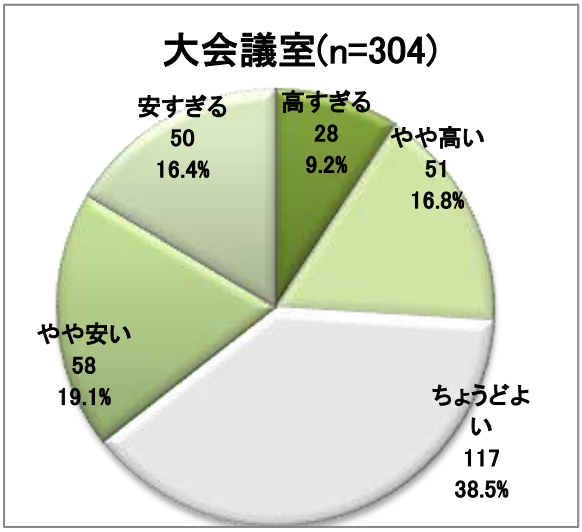
種　　別	1 時間当たりのコスト	現在の使用料（コストに占める割合）
大会議室（295 ㎡、定員 150 人）	7,315 円	600 円（8.2%）
中会議室（54 ㎡、定員 30 人）	1,339 円	200 円（14.9%）

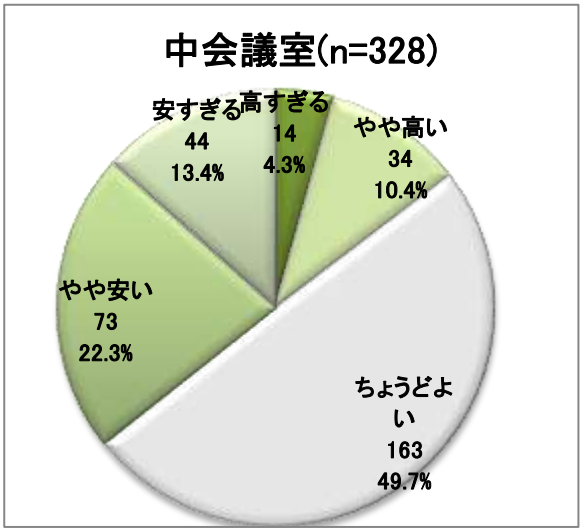
これらの会議室の現在の使用料について、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

◆　大会議室、中会議室ともに、「ちょうどよい」とする回答の割合が最も高くなりました。

大会議室では、「安すぎる」と「やや安い」とを合わせた割合が 35.5%となり、「高すぎる」と「やや高い」とを合わせた割合 26.0%を 9.5 ポイント上回りました。

一方、中会議室でも、「安い」と感じている人の割合が 35.7%となり、「高いと感じている人の割合 14.6%を 21.1 ポイント上回っています。





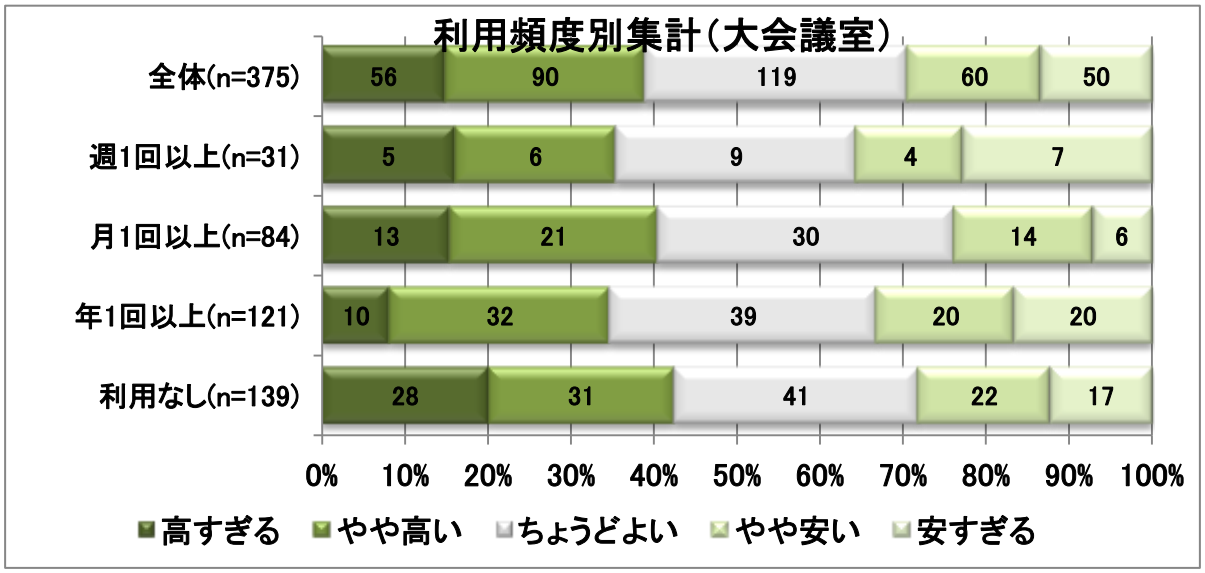
※　質問 9 における回答が矛盾している回答（例：質問 8 においてやや高いと答えているにもかかわらず、質問 9 の値上げ後の金額を安いと回答しているなど）を除いたため、回答者数は、全体の回答者数(375)と一致していません。質問 9 においても同様です。

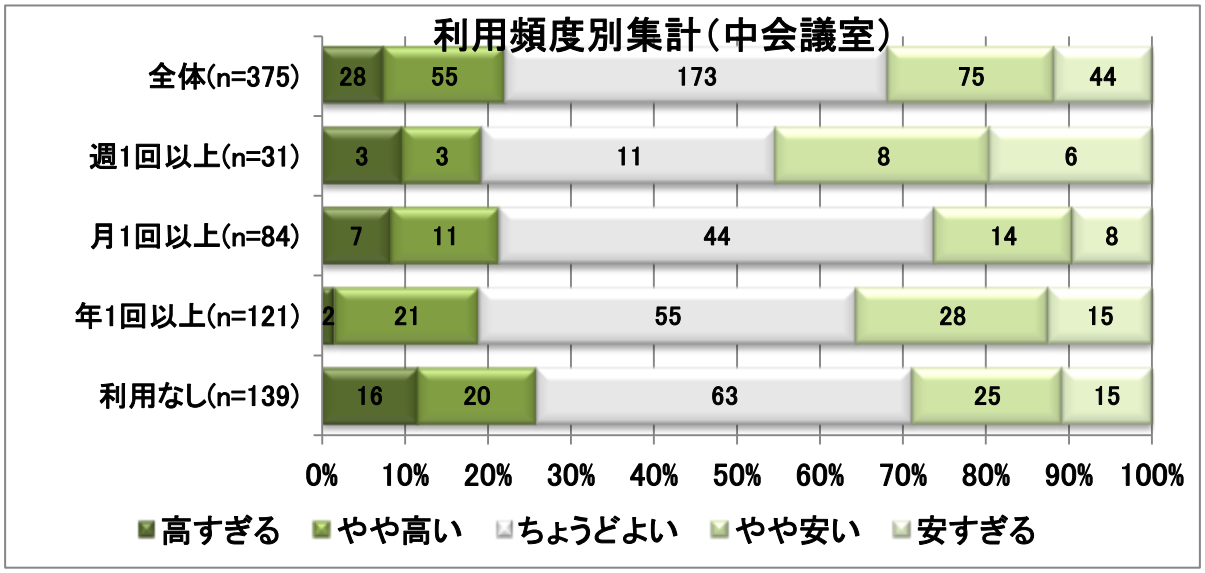
◆　利用頻度別の比較

大会議室、中会議室ともに、「安すぎる」と回答した人の割合が最も高かったのは、公共施設を週に 1 回以上利用した人であり、「やや安い」を足した割合でも、同様の結果となりました。

大会議室について、週 1 回以上利用した人では、「高い」とする割合と「安い」とする割合が同数になっています。

また、「高い」と回答した人の割合が最も高かったのは、公共施設を利用しなかった人であり、「やや高い」を合わせても同じ結果となっています。





質問９　上記の方針に基づき使用料の見直しを行うと、本町公民館の会議室の１時間当たりの使用料は、次のように改定されることが想定されます。

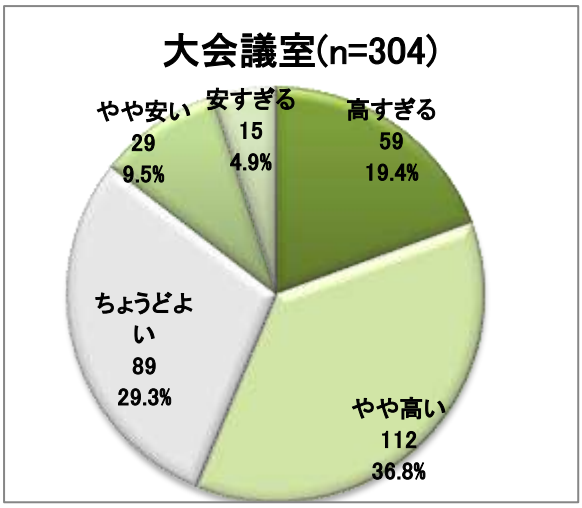
種　　別	１時間当たりのコスト	現在の使用料 (コストに占める割合)	改定後の想定使用料 (コストに占める割合)
大会議室 (295 ㎡、定員 150 人)	7,315 円	600 円 (8.2%)	1,400 円 (19.1%)
中会議室 (54 ㎡、定員 30 人)	1,339 円	200 円 (14.9%)	400 円 (29.9%)

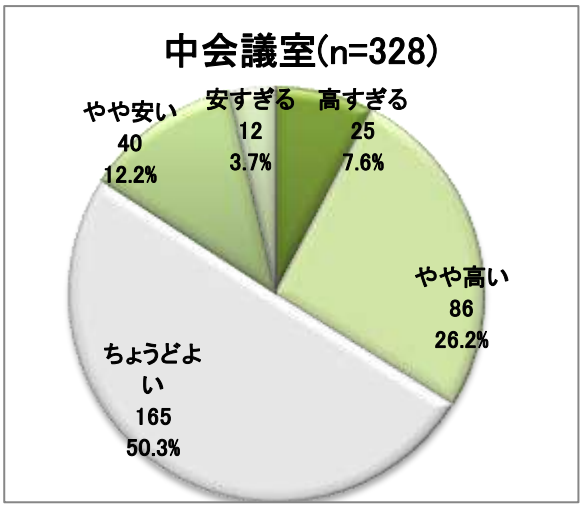
これらの会議室の改定後の想定使用料について、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

◆　中会議室は、「ちょうどよい」とする回答の割合が 0.6 ポイント高まり、およそ半数のひとがちょうどよいと感じていますが、大会議室では逆に 9.2 ポイント下がり、およそ 3 割となります。

また、大会議室では、「高すぎる」と「やや高い」とを合わせた割合は、30.2 ポイント増えて半数を超えましたが、「安すぎる」と「やや安い」とを合わせた割合は 21 ポイント下がって 14.5%となりました。

一方、中会議室では、「高すぎる」と「やや高い」とを合わせた割合は、19.2 ポイント増えて 33.8%となり、「安すぎる」と「やや安い」とを合わせた割合は、19.8 ポイント下がって 15.9%となりました。

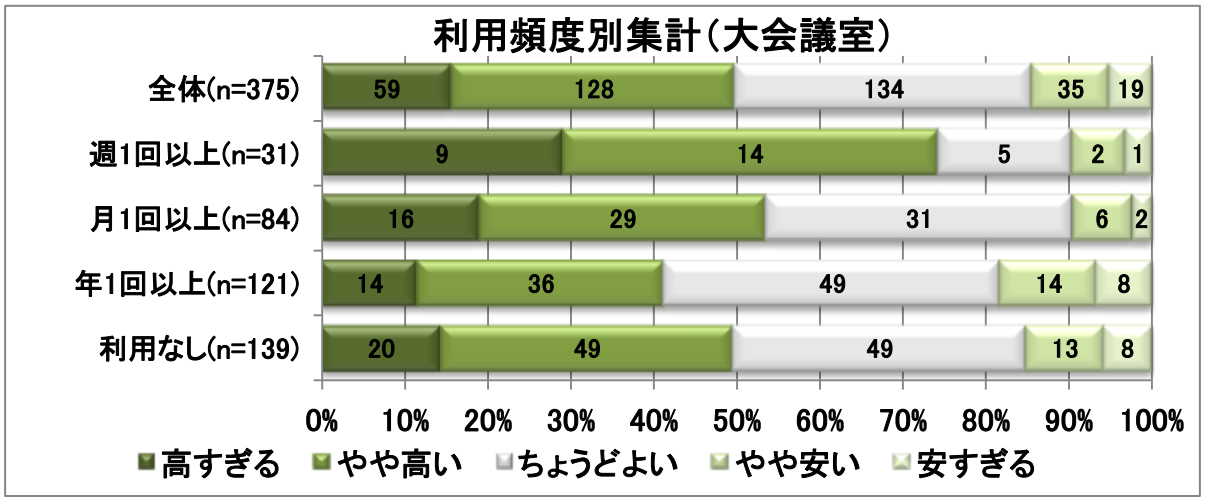


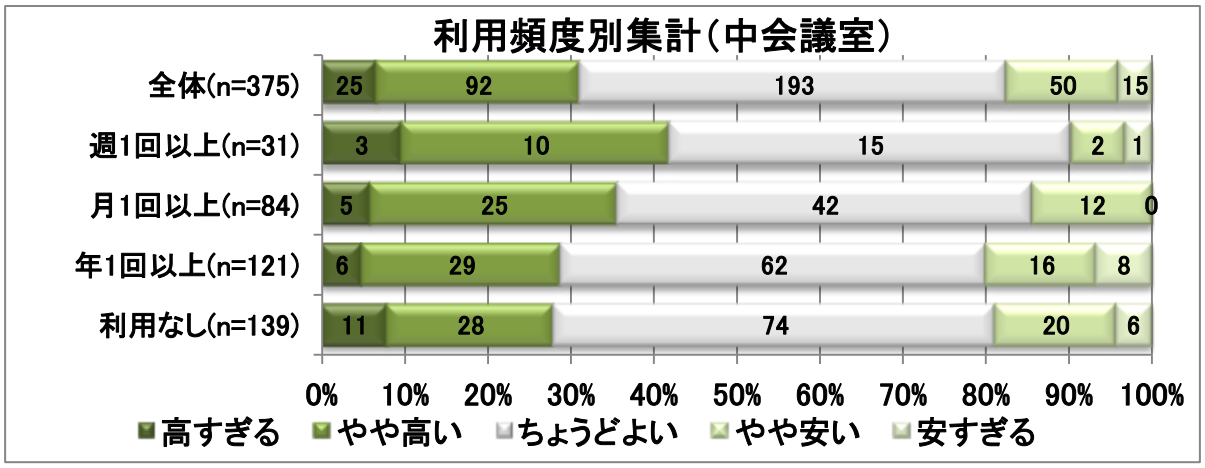


◆　利用頻度別の比較

大会議室、中会議室ともに、「高すぎる」と回答した人の割合が、公共施設を週に1回以上利用した人で最も高くなりました。「やや安い」を足した割合でも、同様の結果となりました。

改定後の想定使用料では、利用頻度が高まるほど「高い」と感じる傾向が見られます。





質問 10　不特定の市民が利用できる公共施設のうち、あなたが将来にわたり、優先的に維持するべきと考える公共施設を５つ選び、優先順位を付けてください。

◆　1 位に挙げた回答者が最も多かったのは、前々回調査及び前回調査に続き「図書館」となりました。以下「公民館」、「総合体育館」、「文化会館」、「保健福祉センター」と続きます。

順位	施設名	1位/番目		2位/番目		3位/番目		4位/番目		5位/番目	
		回答	%	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%
1	各地区の公民館	64	17.1	31	8.3	36	9.6	38	10.1	48	12.8
2	総合体育館	48	12.8	74	19.7	54	14.4	44	11.7	29	7.7
3	図書館	98	26.1	82	21.9	49	13.1	31	8.3	23	6.1
4	保健福祉センター	34	9.1	24	6.4	37	9.9	36	9.6	34	9.1
5	文化会館	34	9.1	36	9.6	59	15.7	47	12.5	28	7.5
6	おおね公園	33	8.8	23	6.1	23	6.1	18	4.8	23	6.1
7	中央運動公園	32	8.5	49	13.1	50	13.3	55	14.7	34	9.1
8	各地区の児童館	3	0.8	5	1.3	9	2.4	13	3.5	22	5.9
9	鶴巻温泉弘法の里湯	4	1.1	15	4.0	11	2.9	18	4.8	19	5.1
10	田原ふるさと公園	3	0.8	2	0.5	7	1.9	5	1.3	10	2.7
11	広畑ふれあいプラザ	2	0.5	1	0.3	3	0.8	5	1.3	5	1.3
12	サンライフ鶴巻	1	0.3	4	1.1	5	1.3	4	1.1	7	1.9
13	末広ふれあいセンター	0	0.0	0	0.0	1	0.3	1	0.3	2	0.5
16	曲松児童センター	1	0.3	2	0.5	2	0.5	2	0.5	0	0.0
17	桜土手古墳展示館	1	0.3	1	0.3	1	0.3	7	1.9	11	2.9
18	表丹沢野外活動センター	3	0.8	3	0.8	5	1.3	6	1.6	17	4.5
19	宮永岳彦記念美術館	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.3	2	0.5
20	はだのこども館	2	0.5	5	1.3	5	1.3	8	2.1	9	2.4
21	中野健康センター	0	0.0	2	0.5	0	0.0	3	0.8	4	1.1
22	くずはの家	0	0.0	1	0.3	3	0.8	8	2.1	3	0.8
23	里山ふれあいセンター	0	0.0	1	0.3	0	0.0	2	0.5	4	1.1
24	この中にはない	12	3.2	14	3.7	15	4.0	23	6.1	41	10.9

◆　得点化による集計

各施設別に第1位を5点、第2位を4点…第5位を1点として得点を集計すると、次表のとおりとなりました。

最高点は、前々回調査及び前回調査に続き「図書館」となりました。

順位		施設名	得点	前回順位		前々回順位
1	←	図書館	1,050	1	←	1
2	←	総合体育館	815	2	↑	4
3	↑	各地区の公民館	676	4	↑	5
4	↑	中央運動公園	650	5	↓	2
5	↓	文化会館	613	3	←	3
6	←	保健福祉センター	483	6	↑	7
7	←	おおね公園	385	7	↓	6
8	←	鶴巻温泉弘法の里湯	168	8	←	8
9	←	各地区の児童館	110	9	←	9
10	←	表丹沢野外活動センター	71	10	↑	11
11	↑	はだのこども館	70	14	↑	20
12	↑	田原ふるさと公園	64	17	↓	12
13	↑	サンライフ鶴巻	51	15	↓	14
14	↓	広畑ふれあいプラザ	38	12	↑	15
15	↓	桜土手古墳展示館	37	11	↓	10
16	↓	くずはの家	32	13	←	13
17	↑	曲松児童センター	23	21	↓	20
18	←	中野健康センター	18	18	←	18
19	↓	里山ふれあいセンター	12	16	↑	19
20	↑	末広ふれあいセンター	7	22	←	22
21	↓	宮永岳彦記念美術館	4	20	↓	17
—	—	なでしこ会館	—	19	↓	16
—	—	曽屋ふれあい会館	—	23	←	23

【凡　例】

←：順位が同じもの

↑：順位が上がったもの

↓：順位が下がったもの

【備　考】

なでしこ会館は、平成 24 年度末をもって廃止しています。また、曽屋ふれあい会館は、平成 26 年度末をもって廃止予定であることから、今回の調査では、対象としていません。

◆　性別・年代別の得点化

性別及び年代別に前期と同様に得点化し、上位5施設を表すと、次表のとおりとなりました。

性別／年代		男性		女性		合計	
		施設名	得点	施設名	得点	施設名	得点
20代	1	図書館	45	図書館	143	図書館	188
	2	総合体育館	45	総合体育館	138	総合体育館	183
	3	公民館	26	中央運動公園	93	中央運動公園	112
	4	保健福祉ｾﾝﾀｰ	25	保健福祉ｾﾝﾀｰ	85	保健福祉ｾﾝﾀｰ	110
	5	文化会館	20	公民館	81	公民館	107
	6	中央運動公園	19	おおね公園	69	文化会館	80
30代	1	図書館	114	図書館	161	図書館	275
	2	中央運動公園	105	公民館	101	中央運動公園	182
	3	総合体育館	82	総合体育館	96	総合体育館	178
	4	文化会館	55	文化会館	83	公民館	153
	5	公民館	52	保健福祉ｾﾝﾀｰ	80	文化会館	138
	6	おおね公園	48	中央運動公園	77	保健福祉ｾﾝﾀｰ	124
40代	1	図書館	108	図書館	181	図書館	289
	2	総合体育館	74	総合体育館	115	総合体育館	189
	3	公民館	70	公民館	113	公民館	183
	4	文化会館	69	文化会館	97	文化会館	166
	5	中央運動公園	69	中央運動公園	91	中央運動公園	160
	6	おおね公園	54	保健福祉ｾﾝﾀｰ	73	保健福祉ｾﾝﾀｰ	105
50代以上	1	総合体育館	202	図書館	111	図書館	298
	2	図書館	187	文化会館	77	総合体育館	265
	3	公民館	176	総合体育館	63	公民館	233
	4	文化会館	152	中央運動公園	58	文化会館	229
	5	中央運動公園	138	公民館	57	中央運動公園	196
	6	保健福祉ｾﾝﾀｰ	93	保健福祉ｾﾝﾀｰ	51	保健福祉ｾﾝﾀｰ	144
合計	1	図書館	454	図書館	596	図書館	1,050
	2	総合体育館	403	総合体育館	412	総合体育館	815
	3	中央運動公園	331	公民館	352	公民館	676
	4	公民館	324	中央運動公園	319	中央運動公園	650
	5	文化会館	296	文化会館	317	文化会館	613
	6	保健福祉ｾﾝﾀｰ	194	保健福祉ｾﾝﾀｰ	289	保健福祉ｾﾝﾀｰ	483

特徴としては、男性では運動系の施設の得点が上位となり、女性では公民館や保健福祉センターの得点が上位となる傾向があります。また、年代が低いほど運動系の施設の得点が上位となります。

なお、総合計の上位施設は、すべての性別及び年代で上位に含まれ、中でも図書館は、50代以上の男性を除き、すべての区分で1位となりました。